

一般社団法人
建設コンサルタンツ協会 東北支部

JCCA TOHOKU

明日への風、
東北から



vol. **66**
支部だより 2023.4

目 次

Vol.66

| | |
|---|---------------------------------------|
| ・ 巻頭言 | |
| 「選ばれる都市へ挑戦し続ける新たな杜の都へ」…………… | 仙台市長 郡 和子 1 |
| ・ 特集 世界遺産特集 東北の世界遺産（前篇）…………… | 2 |
| 「平泉 世界遺産登録の歩み」…………… | 平泉文化遺産センター 参与 千葉 信胤 3 |
| 「世界遺産 明治日本の産業革命遺産 橋野鉄鉱山」 …………… | 釜石市文化スポーツ部 世界遺産課 課長補佐 森 一欽 5 |
| 「世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群」…………… | 縄文遺跡群世界遺産本部 8 |
| ・ 海外紀行 | |
| 「応用地質(株)の海外業務の紹介—都市部の強靱化、バングラデシュ耐震化促進の試み—」 …………… | 応用地質(株) 減災・防災事業部 国際エンジニアリング部長 松尾 淳 10 |
| ・ 技術シリーズ 女性技術者の声 | |
| 「私の生き物探索記」…………… | (株)ドーコン 志小田可奈子 12 |
| 「建設コンサルタント業界で働きつづけること」… | 大日本コンサルタント(株) 佐野真利子 13 |
| ・ 技術シリーズ 若手技術者の声 | |
| 「業務の振り返りと今後の目標」…………… | 三井共同建設コンサルタント(株) 亀田 将汰 14 |
| 「入社からを振り返って」…………… | 八千代エンジニアリング(株) 平嶋 智希 15 |
| ・ 名所旧跡 | |
| 「絶景ロード&絶景の駅」…………… | (株)ニュージェック 横田 悦朗 16 |
| ・ 私の趣味 | |
| 「全国大会優勝、日本新記録を掲げて」…………… | (株)ダイエツ 小枝 大樹 17 |
| ・ 新規会員の紹介 | |
| 「未来社会を創造する100年企業を目指して」…………… | (株)テイコク 森 英樹 19 |
| ・ 委員会紹介 | |
| 「情報部会紹介」…………… | 情報部会長 小澤 宏二 20 |
| ・ 講演会報告 | |
| 「令和4年度 講演会報告」…………… | 広報委員 (株)建設技術研究所 大場 秀行 21 |
| ・ 支部活動報告 | |
| 「令和4年度 意見交換会について」…………… | 対外活動委員会 23 |
| 「令和4年度 河川講習会 活動報告書」…………… | 技術部会 河川専門委員会 26 |
| 「令和4年度 道路専門委員会・構造専門委員会合同技術講習会」 …………… | 技術部会 道路専門委員長 岡田 篤 28 |
| 「東北地方整備局若手職員×建コン協若手の会交流会」 …………… | (株)福山コンサルタント 加藤 優平 30 |
| ・ 支部だより…………… | 31 |
| ・ 会員の動向…………… | 35 |
| ・ 東北支部会員名簿…………… | 36 |
| ・ 編集後記…………… | 広報委員 相澤 達也 38 |



選ばれる都市へ挑戦し続ける 新たな杜の都へ

仙台市長 郡 和子

あの東日本大震災から12年を迎えます。この間、一般社団法人建設コンサルタンツ協会東北支部の皆さまにおかれましては、震災からの復旧・復興工事における測量設計業務を通して多大なるご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。

本市では、「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～The Greenest City “SENDAI”」をまちづくりの理念として掲げておりますが、アフターコロナを見据えると、都市間競争は激しさを増すことが予想され、内外の人から選ばれる魅力あるまちづくりが重要となってまいります。

令和5年5月には、本市において、G7仙台科学技術大臣会合が開催されます。本市でG7関係閣僚会合が開催されるのは平成28年以来7年ぶりで、秋保地区を会場として、活発な議論が行われる予定です。

本市としては、次世代放射光施設「ナノテラス」や先端IT技術と多様な産業のかけ合わせによる「X-TECH（クロステック）」の取組みなどを通じ、科学技術を活用したまちづくりを世界に向けて発信してまいります。

また、復興の歩みと感謝の気持ちを各国へお伝えす

ると同時に、期間中に開催される全国都市緑化仙台フェアとも連携しながら、豊かな自然や温泉、食文化等に恵まれた仙台・東北の魅力をアピールし、アフターコロナの交流人口拡大につなげてまいります。

本市では、これまで大規模でハイレベルな国際会議の開催を積み重ねてまいりました。今回の会合を通じて、グローバルMICE都市としての更なる成長につなげ、杜の都の都市ブランドを強化してまいります。

また、昨年、本市では、東北の玄関口である青葉通仙台駅前エリアにおいて、このエリアの将来ビジョンの検討を進めるための社会実験を実施しました。今後、実験結果や市民の皆さまのご意見を踏まえて将来ビジョンを策定し、仙台の顔にふさわしい魅力的な空間形成に取り組んでまいります。

本市が目指す挑戦を続けるまちの実現には、都市基盤の整備や維持管理等を支えてくださる皆さまのご協力が不可欠です。今後もさまざまな挑戦を皆さまと重ね、魅力あふれる仙台を次の時代にしっかりと引き継ぎ、内外からも選ばれるまちを実現してまいりたいと存じますので、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

世界遺産特集 東北の世界遺産（前篇）

世界遺産は、「顕著な普遍的価値」を有する文化遺産や自然遺産などであり、1972年に成立した世界遺産条約に基づき、世界遺産リストに登録された物件を指します。

世界遺産条約はユネスコ成立以前、20世紀初頭から段階的に形成されてきた国際的な文化財保護の流れと、国立公園制度を最初に確立したアメリカ合衆国などが主導してきた自然保護のための構想が一本化される形で成立したものであり、登録される物件は不動産、つまり移動が不可能な土地や建造物に限られます。そのため、たとえば寺院が世界遺産になっている場合でも、中に安置されている仏像などの美術品（動産・可動文化財）は、通常は世界遺産登録対象とはなりません。ただし、東大寺大仏のように移動が困難と認められる場合には、世界遺産登録対象となっている場合があります。逆に、将来的に動産になる可能性があると判断される場合、推薦時点で不動産であっても認められないことになっています。

日本における世界遺産登録は、平成5年に「法隆寺地域の仏教建造物」（奈良県）が第1号に認定され、令和5年1月現在で25の登録認定がなされております。



東北における世界遺産登録

平成5年に自然遺産登録された「白神山地」、平成27年、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の「橋野鉄鉱山跡」、令和3年に文化遺産登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」三内丸山遺跡（青森市、特別史跡）、小牧野遺跡（青森市）、是川遺跡（八戸市）、亀ヶ岡石器時代遺跡（つがる市）、田小屋野貝塚（つがる市）、大森勝山遺跡（弘前市）、二ツ森貝塚（七戸町）、大平山元I遺跡（外ヶ浜町）、御所野遺跡（一戸町）、大湯環状列石（鹿角市、特別史跡）、伊勢堂岱遺跡（北秋田市）が挙げられます。

JCCA TOHOKUでは、前後編に分けて、東北の世界遺産を紹介いたします。66号では前編として、平泉文化、橋野鉄鉱山跡、「北海道・北東北の縄文遺跡群」、引き続き67号では、白神山地、御所野遺跡、伊勢堂岱遺跡・大湯環状列石をご紹介します。





平泉 世界遺産登録の歩み

平泉文化遺産センター 参与 千葉 信胤

最初の推薦

「国宝建造物指定第1号の中尊寺金色堂や特別史跡・特別名勝の二重指定を受けている毛越寺庭園など、平泉の貴重な文化遺産を世界遺産に登録しよう」という話が持ち上がったのは1997年のことで、その翌年8月には、岩手県・平泉町の代表者等が日光を視察、9月の町議会で町長から登録をめざす旨の発言があり、町としての具体的な作業が始まりました。暫定リストへの掲載は世界遺産登録の第一歩です。

2000年11月、国の文化財保護審議会は、「紀伊山地の霊場と参詣道」・「石見銀山遺跡」とともに「平泉の文化遺産」の暫定リスト追加を了承し、翌年4月正式に登録されました。2003年秋、「平泉の文化遺産」は平泉町内の中尊寺・毛越寺など6資産、それに一関・奥州両市の3資産、あわせて9つの資産で2008年の登録をめざすことになりました。岩手県教育委員会は、2004年6月「平泉の文化遺産登録推薦書作成委員会」を設置、会議では推薦書のコンセプトや本文の記述内容が議論され、平泉の価値が理論補強されていきました。

2006年6月には、「平泉の文化遺産国際専門家会議」が開催されています。会議には、オランダ・中国・韓国の専門家が参加し、「平泉」の価値や保存管理の方策が話し合われました。その成果を踏まえて推薦書が完成、「平泉—浄土思想を基調とする文化的景観」のタイトルで2006年12月、世界遺産センターに提出されたのです。

国際記念物遺跡会議すなわちイコモス (ICOMOS) は、ユネスコの諮問機関として推薦書の審査や資産の現地調査が委ねられた非政府組織 (NGO) です。2007年8月末、そのイコモスによる現地調査も大過なく終了し、誰もが「あとは翌春のイコモス勧告を経て夏には登録を待つばかり」と思っていました。イコモスの勧告は、「記載」「照会」「延期」「不記載」の4段階で示されますが、「紀伊山地の霊場と参詣道」まで日本の推薦資産はすべて「記載」勧告であり、はじめ

て「延期」勧告を受けた石見銀山も世界遺産委員会で逆転登録を果たしていたからです。

ところが、暮れも押し迫った12月末、イコモスから質問状が届きました。内容は資産の価値にかかわる重要なものであり、文化庁では岩手県及び関係市・町と共同で「補足情報資料」をまとめ、翌年2月末に提出しました。

ケベック・シティーの屈辱

2008年5月23日早朝、イコモスの勧告が発表されました。平泉は「文化的景観として評価できない」、推薦書が「資産価値を証明しきれていない」、浄土庭園に関する「比較研究が不十分」、再推薦にあたっては「構成資産の見直し」等々とても厳しいもので、登録の「延期」を告げる内容だったのです。これを受けて文化庁及び外務省は世界遺産委員会への対応を協議し、6月には県や関係市町の担当者までパリのユネスコ日本政府代表部に赴き対応策が話し合われました。

世界遺産委員会は7月2日からカナダのケベック・シティーで開催され、平泉の審議は現地時間の6日夜でした。発言者の多くが平泉を高く評価したものの逆転にいたらず、結果は「登録延期」でした。

会議の直後、日本政府代表団は今後の推薦作業については平泉を第一とし、3年後2011年の世界遺産委員会での再審議をめざすと表明しました。とはいえ町民のみならず関係者の多くが登録を疑わなかっただけ、その衝撃と落胆は大きなものでした。

各メディアも「平泉・落選」と大々的に報じ、「平泉ショック」と言う言葉まで生まれました。「石見」の逆転登録に続く「日本初の延期決議」というのも、取り上げやすい要因でした。そのショックは地元だけのことではありません。記者会見で示された「平泉最優先」の方針は、後続する資産の推薦スケジュールに直接関わってくるわけで、富士山・富岡製糸場や鎌倉など全国各地に非常に大きな衝撃を与えたのです。

再チャレンジスタート

登録延期の屈辱を背負っての帰国から間もなく、文化庁・県・関係市・町で再チャレンジの取り組みが始まりました。2011年の世界遺産委員会で再審議に持ち込むためには、2009年9月までに推薦書暫定版を提出する必要があります。実質1年と数ヶ月しか時間がないのです。文化庁が表明した再推薦の計画は、物理的に実現可能な最短コースだったのです。

文化庁では庁内にプロジェクトチームを立ち上げ、県も再び推薦書作成委員会を設置し、9月には会議を開催しています。その冒頭文化庁より「背水の陣で臨む」、「主題や構成資産についてもゼロベースで理論を再構築する」旨説明があり、ここに再び関係者の総力が結集されることになりました。

明けて2009年の2月と4月には国際専門家との打ち合わせが行われ、再推薦の根幹について話し合われました。その際、海外の専門家から「構成資産の選択は価値証明が確実な資産のみとし、他の資産については将来的な調査研究の進展を踏まえて、追加登録（拡張）とすることが適当」との指導がありました。これを受けて文化庁・県・関係市町の代表者による協議となり、「資産を絞って登録をはたした後に拡張登録をめざす」二段構えの取組方針が合意されました。

その結果、「中尊寺」をはじめとする平泉中心部の資産で再推薦にのぞむことになったのですが、関係者にとってはまさに苦渋の決断でした。

翌5月、文化庁主催により中国・韓国の専門家を招いての「東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究会」が奈良文化財研究所を会場に開催されました。浄土庭園の国際的な価値証明は、再推薦の大きな課題でしたが、海外の専門家からも高い評価を得ることができました。

再チャレンジの取り組みがスタートして1年、推薦書の改定作業はまさに「待ったなし」のタイトなスケジュールで進められ、9月28日に暫定版推薦書を提出、遅れてしまうと審議が一年先送りされてしまいます。まさにギリギリのタイミングでした。

2010年1月、正式の推薦書がパリの世界遺産センターに提出され、同年9月には2度目となるイコモス現地調査を受け入れたのです。

復興の光

2011年3月11日、未曾有の災害が我々を襲い、沿岸被災地救援・復旧、そして復興への日々が始まりました。イコモスの勧告は5月7日のことです。構成資産のひとつ「柳之御所遺跡」を除外して、という条件付きではあったものの、記載勧告の朗報が復興支援の励みになったことはいまでもありません。

6月25日夕刻、パリのユネスコ本部で開催された世界遺産委員会において、「平泉」の審議は最終段階を迎えていました。全ての委員国が「平泉」の登録に賛同し、歓迎と祝意の言葉が次々と述べられました。

“Decision（決定）”、議長がガベル（木槌）を打ち下ろすや、大会議場に万雷の拍手が鳴り響きました。「平泉」の登録が決定した瞬間です。それは暫定リスト登録から10年、苦難の再チャレンジから3年の取り組みが報われた瞬間でもありました。

議長を務めるカンボジアのロス・ボラート氏から祝福と励ましのコメントが述べられました。「世界遺産委員会のメンバーを代表し、日本の、とりわけ震災の被害に遭われた地域の皆さんに対して弔意を表したい。我々は皆さんのそばに立っている。平泉の世界遺産登録が、復興に向けた勇気を皆さんに与えることを願っている。そして近い将来、この素晴らしい遺産を訪問したい。」それは、平泉が世界のHIRAIZUMIへ、新しいステージへ一歩踏み出した瞬間でもありました。

世界遺産登録の取り組みがスタートしてから二十数年、登録もひと昔前のことになりました。この間平泉では、少しずつではありますが資産を尊重するまちづくりが進められています。そして平泉のみならず岩手の子供たちは、先人が築きあげ守り継いできた地域の文化遺産に目を向けて学び、愛情と誇りをもって育っています。地域の宝物を守り続けていく使命が未来永劫引き継がれていくことを祈らずにはおれません。



世界遺産「明治日本の産業革命遺産」橋野鉄鉱山

釜石市文化スポーツ部 世界遺産課 課長補佐 森 一 欽

1. はじめに

1850年代から1910年代にかけての我が国における産業革命は、ヨーロッパ以外の地域では初。そして約半世紀という短期間で達成した点において「東洋の奇跡」と評され、それを物語る8県11市に所在する23の産業遺産を構成資産として、平成27(2015)年「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産登録された。

「明治日本の産業革命遺産」の構成資産は製鉄・製鋼、造船、石炭産業の3の類型、そして幕末から明治期の産業発達の過程を「試行錯誤」・「直接的西欧技術の導入期」「産業革命の達成段階」の3段階に分類されており、多くの資産が九州・山口地域に所在している。

約1300kmも離れた岩手県釜石市に所在する橋野鉄鉱山がなぜ構成資産となったか紹介していきたい。

2. 幕末から明治における製鉄業の産業革命

江戸時代、日本は鎖国をしており、オランダ、中国以外の国とは国交が無かった。1776年のアメリカ独立を契機にイギリス、フランスなどの西欧列強はアジアへの進出が顕著となり、日本近海にも頻繁に出没し始めた。またロシアも不凍港を求め南下政策を始めていた。幕府は海防のため諸藩に海岸の防備を命じ、砲台場が設けられた。その後、天保11(1840)年に勃発したアヘン戦争に清国が敗北した情報が入ると、天保13(1842)年、これまでの異国船打ち払い令を廃止し、薪水給与令を出し、宥和政策を執るとともにさらなる海防の強化を図った。

さらに、嘉永6(1853)年6月、アメリカ東インド艦隊司令長官マシュー・ペリーが黒船4隻で浦賀に来航し通商を求め、翌嘉永7(1854)年1月の再来し、幕府は日米和親条約を締結する。あわせてフランスや

ロシア、イギリス、オランダとも同様の不平等条約を結んだ。幕府の対応に対し、国内は開国派と攘夷派で対立、これに13代家定の後の将軍継承問題も絡み混乱していた。このような中、幕府や佐賀藩、そして攘夷派の薩摩藩や長州藩、水戸藩では欧米に対抗できる軍備の拡張を目的とし、西洋技術の導入を行った。日本の船は木製で、大砲は銅製であったのに対し、欧米では鉄の船そして大砲も鉄製であった。そのため、鉄製大砲を鑄造しようと、オランダのロイク国立大砲鑄造所長ヒュゲーニンが著した『ロイク国立大砲鑄造所における鑄造法』などを翻訳し、独自に反射炉建設に乗り出した。

攘夷派の急先鋒であった水戸藩では前藩主徳川斉昭の主導により、藤田東湖が中心となり藩政改革や海防強化を推し進め、盛岡藩士大島総左衛門(のちの高官)や薩摩藩士竹下清右衛門矩方、三春藩士熊田嘉門宗弘を招聘し、安政3(1856)年に那珂湊反射炉が完成した。

大島総左衛門は鉄製大砲の素材はたたら製鉄による砂鉄銑ではなく、岩鉄(磁鉄鉱)銑で無くてはならないという見解から、反射炉に岩鉄銑を供給する目的で、大橋(現釜石市甲子町第1地割)に高炉の建設を計画した。盛岡藩では高炉建設は初の試みであり、また財政難もあり、出資を断られ、大島は山田の御給人貫洞瀬左衛門に出資を依頼した。貫洞は大槌の御給人小川惣右衛門と久慈の山師中野作右衛門の協力を得て、安政4(1857)年12月1日(西暦1858年1月15日)、連続出銑に成功した。このことから釜石は「近代製鉄発祥の地」となっている。



大島高任

その翌安政5（1858）年に大島の指導で盛岡藩が建設したのが橋野鉄鉱山である。

明治に入り「富国強兵」・「殖産興業」を目標とし近代化を推し進める明治政府は、明治3（1870）年に工部省を設置し、釜石に製鉄所を建設することとした。建設にあたり、お雇い外国人のピアンヒーと大島高任を起用した。建設用地は海運を活かすため、鉱石採掘場の隣接地ではなく沿岸部に建設する計画となるが、ピアンヒー案（大型高炉（25t/1日）案）と大島案（小型高炉案（10t/1日））が対立した。政府はピアンヒー案を採用し、鈴子に製鉄所を建設することを決定した。ちなみに、橋野鉄鉱山の高炉は1日2tの高炉なので、いきなり12.5倍の高炉に挑戦することとなった。

港には専用棧橋を設け、大橋の採鉱場と釜石工場間には、我が国3番目の鉄道、工部省鉱山寮釜石鉄道を建設し、鉄鉱石を運搬した。

建設年数6年、巨額の設備投資、20名近い外国人技師の雇用をした巨大プロジェクトは実日数1年にも満たないまま、明治15（1882）年12月営業廃止が決定した。

失敗の要因については、鉄鉱石の欠乏や木炭の不足、外国の技術に職工がついて行けなかったなど諸説あるが、明治10年代は、政府事業の拡大や西南戦争などによる巨額の戦費により財政危機に見舞われていた。この時、大隈重信に代わり大蔵卿となった松方正義は、赤字解消策として明治15（1882）年に官営工場払下概則を施行し、これに基づき、官営釜石製鉄所も払い下げられることとなった。

釜石製鉄所は田中長兵衛に払下げられた。田中長兵衛は横須賀支店長の横山久太郎に一切を任せた。横山は地元出身の高橋亦助を高炉主任に、村井源兵衛を機械主任に採用し、48回の失敗を乗り越え、明治19（1886）年に出鉄に成功、翌明治20（1887）年に釜石鉱山田中製鐵所を設立した。



49回目で成功した高炉

高橋の建設した炉は「日本式」あるいは「大島式」と呼称される大島高任が釜石で建設した初期高炉とは

ほぼ同型の3t高炉で、送風を冷風から熱風に変えたものであった。出鉄の成功後、明治24（1891）年までに大橋や鈴子に2基ずつ新設し、さらに栗橋分工場を建設、27（1894）年に操業を開始し、7基の小高炉体制で操業した。

釜石産鉄鉄は明治23（1890）年の大阪砲兵工廠の実験により、海岸砲の弾丸製造用の輸入鉄鉄であるイタリアのグレゴリーニ鉄に比べ遜色なしとの結果を得た。またヨーロッパ最大の武器・砲弾製造元であるドイツのフリードリッヒ・クルップ製のものと比較からも同等で、しかも安価であるとの結果を得て、販路も安定した。

一方、官営時代の2基の炉は、廃業後そのままの状態であった。そこで、田中は農商務技師で東京帝国大学採鉱冶金科教授の野呂景義とその弟子で農商務省技師試補であった香村小録にその改修を依頼し、明治27（1894）年30t炉として操業に成功した。この炉は木炭に代わり、コークスを用い製錬したことで出鉄量が飛躍的に増加した。この年、釜石鉄は生産量において初めて中国地方の砂鉄鉄を超えた。このコークス鉄はわが国初めての成功であり、現在もこの方法が採用されている。



改修された高炉

1890年代には鉄道網の進展や日清戦争など鉄の需要が伸びており、再度国策として官営の製鉄所の必要性が提唱されており、大型高炉の成功は製鉄所建設の大きなきっかけとなった。明治29（1896）年、議会上に承認された官営八幡製鐵所建設には釜石で経験を積んだ技師や8名の熟練職工が派遣されたほか、初代技監には大島高任の長男道太郎がつき、明治34（1901）年操業を開始する。しかし当初はうまくいかなかったため、囑託顧問として野呂景義が指導し、日本最大にして日本初の銑鋼一貫体制の製鐵所として本格始動する。「明治日本の産業革命遺産」ではこれを産業革命の達成とみている。

以上述べてきたように、見たこともないのに、外国人技師を雇うことなく手探りで反射炉や高炉を建設し

た第1期「試行錯誤」の段階、明治初期のお雇い外国人による第2期「直接的西欧技術の導入期」を経て、帰国した留学生による第3期「産業革命の達成」というストーリーにおいて第1期及び第2期における釜石の役割は大きい。残念ながら第2期を物語る遺産はその後の産業の発展により主要なものは失われてしまったが、第1期を物語る資産として当時の産業システムが残されていることから「明治日本の産業革命遺産」の構成資産に橋野鉄鉱山は組み込まれることとなった。

3. 橋野鉄鉱山について

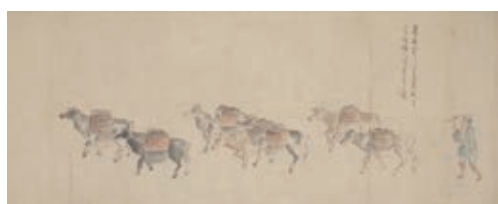
橋野鉄鉱山は釜石市の北西部、橋野町第2地割（青ノ木）に所在する。鵜住居川支流の二又沢川流域に立地している。鉄鉱石の採掘場跡、製錬場である高炉場跡、それを結ぶ運搬路跡で構成されている。

採掘場跡は高炉場跡の南約2.6kmにあり、橋野鉄鉱山時代からその後の日鉄鉱業(株)まで、継続的に採掘されてきた。このうち、橋野鉄鉱山時代の採掘は露天掘りで、現在の日鉄鉱業(株)の社用地内の南側に、当時のものと考えられる露天掘跡や石垣、平場がある。最南端は岩が切り立っており、その下に半地下式の採掘場がある。この採掘場は田中時代のものと考えている。



採掘の状況（高炉絵巻より）

運搬路跡は高炉場跡と採掘場跡を結ぶ道であるが、昭和9（1934）年頃に自動車による採掘運搬を行う目的で道路が開設されたため、とぎれとぎれとなっている。車用の道は現在国有林の林道あるいは作業道として使われている。当時は鉱区からの急斜面については人力で、平坦な運搬路は牛で運搬していた。



運搬の状況（高炉絵巻より）

高炉場は鉄鉱石を製錬し、銑鉄を生産する場所で、現在の製鉄所に相当する。現在の製鉄所は多くが臨海部にあるのに対し、たたら製鉄のように採掘場周辺にある点が、前近代的な立地といえる。

橋野鉄鉱山の高炉場は二又沢川の下流の平坦な場所にあり、南から一番、二番、三番と3基の高炉や、主に送風用のフイゴの動力となる水車に水を引くための水路、橋野鉄鉱山の事務所である御日払所等が露出遺構として確認できる。『紙本両鉄鉱山御山内並高炉之図』収録の「橋野鉄鉱山惣御山内略図」では、この他に大工長屋や鍛冶長屋などの製鉄関連施設や、働く人びとの長屋や神社など鉱山集落を物語る建物が描かれており、その礎石などが埋蔵文化財として良好に残っており、釜石市では継続的に発掘調査を実施し、その内容確認を行っている。



三番高炉



高炉の図（高炉絵巻より）

周辺は白亜紀のマグマの隆起に起因する花崗岩帯となっており、高炉場跡東側の山にはタガネの痕が残る岩が所々で見られる。高炉石組や水路などの石垣の石材となる石切場であったと考えられる。

周辺の山林は昭和30年代以降植林され、スギを中心とした森となっているが、橋野鉄鉱山時代にはマツやナラなどの広葉樹林が主で、製鉄用の木炭の生産に使われていたと考えられる。釜石市では林野庁東北森林管理局と「橋野鉄鉱山郷土の森協定」を締結し、橋野鉄鉱山か同時代の森の再生を目指している。

3. おわりに

近代製鉄発祥の地釜石では、橋野鉄鉱山のほか鉄の歴史館や国登録有形文化財日釜石鉄山事務所など、見どころも多くあるのでぜひ来訪いただきたい。

世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」 Jomon Prehistoric Sites in Northern Japan



縄文遺跡群世界遺産本部

1. 世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」とは

2021年7月27日に世界遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、1万年以上にわたり採集・漁労・狩猟により定住した人々の生活と精神文化を伝える文化遺産です。

国内最大級の縄文集落跡である特別史跡三内丸山遺跡（青森市）をはじめ、大規模な記念物である特別史跡大湯環状列石（鹿角市）、墓域や祭祀の跡が残る御所野遺跡（一戸町）、大規模な貝塚を伴う北黄金貝塚（北海道）など、北海道・青森県・岩手県・秋田県に所在する17の遺跡で構成されています。

この地域では、今から約15,000年前に定住がはじまり、その後、1万年以上にわたって農耕に移行することなく、気候の温暖化や寒冷化などの環境変化にも適応しながら、定住が発展、成熟しました。

この間、墓地、祭祀・儀礼の場である盛土や環状列石、土偶などにみられるように、精緻で複雑な精神文化が育まれました。



特別史跡 三内丸山遺跡



特別史跡 大湯環状列石

2. 縄文遺跡群の楽しみ方

(1) 自然・景観

縄文時代を彷彿とさせる景観が保全されており、広大な遺跡をのんびりと歩いて、当時の人々のくらしに思いを馳せるとともに、四季折々の表情を楽しむことができます。



史跡 御所野遺跡 秋の様子

(2) 遺跡ガイド

地域住民からなるボランティアガイド等が遺跡や展示室の解説をしており、ガイドの説明を受けながら遺跡を巡ることで遺跡への理解を深めることができます。



特別史跡 三内丸山遺跡 ガイドの様子

(3) ガイダンス施設

遺跡の周辺には、発掘調査の状況や出土品を展示するガイダンス施設があり、土器や石器、土偶などの出土品をみて、縄文時代の人々のくらしや信仰に触れることができます。



是川縄文館

(4) 体験プログラム

土器・土偶・装身具などのものづくりなど、子どもから大人まで楽しむことができる体験プログラムがあり、体験活動を通して、当時の人々の生活の知恵や技術を体感することができます。



土器づくり体験の様子

3. 縄文遺跡群のイベント

北海道・北東北の縄文遺跡群では、1年を通してさまざまな展示やイベント、体験プログラムなどを実施しています。

令和4年度は、東京都、福岡県での世界遺産登録記念フォーラムや、「私の好きな縄文」をテーマに各遺跡の写真を募集する「世界遺産でパシャッ！北海道・北東北の縄文遺跡群 縄文フォトコンテスト」など、より楽しく遺跡を巡ることができるイベントも実施しました。



令和5年度のイベントについては、7月に発行予定の「北海道・北東北の縄文遺跡群まるごとナビ2023」に掲載します。

当冊子は観光案内所で配布のほか、縄文遺跡群の公式ホームページでもダウンロードできます。



北海道・北東北の縄文遺跡群まるごとナビ2022

4. パンフレット・HPなどの情報発信

世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」では、遺跡の概要や情報を掲載した「世界遺産『北海道・北東北の縄文遺跡群』パンフレット」(図1)、遺跡へのアクセスや周遊のモデルコースを掲載した「北海道・北東北の縄文遺跡群周遊マップ『JOMON MAP』」(図2)など、来訪者向けのパンフレットを用意しており、これらは縄文遺跡群の公式ホームページでもダウンロードできます。

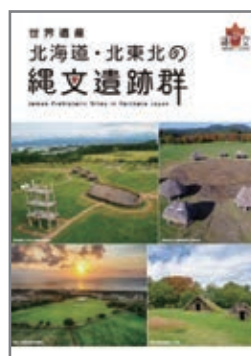


図1



図2

世界遺産
北海道・北東北の縄文遺跡群
公式ホームページ
<https://jomon-japan.jp>



5. 最後に

世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、17の遺跡すべてに訪れることで、その価値や魅力への理解が深まります。

皆さまにも縄文の価値や魅力を知っていただきたく、遺跡でお会いできる日を心待ちにしています。

応用地質株式会社の海外業務の紹介 —都市部の強靱化、バングラデシュ耐震化促進の試み—

応用地質株式会社 減災・防災事業部 国際エンジニアリング部長 松尾 淳

1. 応用地質の海外業務

応用地質株式会社（以下、OYO）は1957年に「地質工学の創造」を旗印に設立され、地質のみでなく地盤全般を対象としたコンサルティング会社です。OYOは、1964年の新潟地震の発生時に当社独自の災害調査団を派遣して以後、地震や風水害など自然災害の多い日本にあって、自然災害の被害を軽減するとの目標を掲げて、防災業務を実施してきました。特に、地震防災分野では、地表地震動や液状化現象が、土質と関係が深いことから、当社の強みである地盤調査を通して地表地震動を想定する、地震マイクロゾーニングを実用化してきました。

また、OYOの自然災害に対する技術を海外の防災に寄与するため防災分野、特に地震災害関連で実績を積んできました。イランのマイクロゾーニング調査から始まり、フィリピン、ネパール、トルコなど世界各国の地震被害想定を実施してきております。最近では、仙台防災枠組などの国際的な方針に基づいた災害対策が求められ、バングラデシュ、ネパール、エクアドルなどで建築物の耐震診断・耐震補強に関する技術移転を数多く実施しております。

今回は、バングラデシュにおける国際協力機構による支援として行われた、建物の強靱化プロジェクトを紹介することで、OYOの海外業務の一部を紹介したいとおもいます。

2. 耐震改修の技術指導

バングラデシュ、ネパールの南アジア、アルジェリア北アフリカ、ミャンマーの東南アジアなど、鉄筋コンクリートのフレームの中に、レンガ壁が入った建物が多くみられます。この建物は、施工性がよく、比較的安価であるため多くの国で採用されています。しかしながら、一方では地震に対して鉄筋コンクリートの枠組みは変形性（靱性）を持ちますが、レンガ壁は変形性を持たないことから、地震が発生すると壁が壊れるなど、弱い性質を持ちます。加えて、最近では地震網が発達し、多くの国で建物の耐震地震動が大きくなるよう改定されることもあり、現在の基準と比較すると

耐震性が不足する建物も多く、耐震補強の技術は海外で必要な業務となっております。また、途上国にありがちな課題として、施工不良や違法建築があります。2013年に地震が発生していないにもかかわらずバングラデシュの縫製工場が倒壊し、1,000人を超える従業員が亡くなる痛ましい事故が発生しました。



図1 バングラデシュ縫製工場の事故
(DAILY STAR 2013.4.24)

この事故は、バングラデシュの公共事業局（以下PWD）の調査で、「当初6階建てで設計された建物に、オーナーの意向でさらに3階分の建て増しが行われた違法建築である」と発表されました。

この事故を契機に、バングラデシュ政府から日本政府（日本大使館）への要望を受け、PWDがOYOの技術支援のもと、縫製工場の耐震化を図る事業を実施いたしました。

3. 建物耐震化事業

建物は最初に耐震診断を実施します。基準は、バングラデシュの建築基準とし、その不足分を補強した設計を実施しました。



図2 竹足場の設置

本プロジェクトの趣旨は、バングラデシュの耐震補強建物の促進が趣旨のため、地元の業者が施工を実施し、業者を指導するPWDの現場監理の指導となります。地元の業者のため、竹足場などの作業は、地元のやり方を踏襲しております（図2）。一方、クレーンなどで、補強材の設置など、バングラデシュのような中低層ビルではあまり使わないクレーンなどの建設機材の安全指導もありました（図3）。



図3 クレーンによる鉄骨プレースの設置

4. まとめ

本プロジェクトにより、PWDは自ら管理する公共建物の補強工事ができるようになり、ダッカの建物が少しずつ補強されつつあります。

今、OYOで把握しているのは、縫製工場2棟、消防署、公共のオフィスビル2棟、病院および関連施設が3棟です。もちろん、ダッカで実施されたCDMPのデータでは、ダッカ市全体の建物は32万7千棟あるといわれています。ダッカでは耐震設計基準が、国のルールと定められたのが2008年であり、30万棟を超える建物が設計基準制定前の建物となり、対策すべき



図4 PWDのプロジェクトによる耐震補強

建物は多いことになります。したがって対象建物が多く、耐震補強の工事の速度は遅いのが実情ではあります。とはいえ、バングラデシュの公共事業省が、建物の地震対策を実施できるようになったことは大きく、バングラデシュの経済成長とともに、ダッカなどの都市部の強靱化は促進されていくものと期待されます。

5. 謝辞

活動の実行においては、国際協力機構より委託された業務のとして実施しました。本事業実施にあたっての国際協力機構の協力に感謝します。

6. 参考文献

- » 国際協力機構：災害リスク削減のための建物の安全性強化促進プロジェクト2016年2月～2022年2月
- » 国際協力機構：自然災害に対応した公共建築物の建設・改修能力向上プロジェクト2011年2月～2016年1月
- » UNDP CDMP Comprehensive Disaster management program 2009年

私の生き物探索記

株式会社ドーコン 志小田 可奈子

1. はじめに

私は環境保全チームに所属しており、河川敷や森林、公園から海浜部に至るまで、日々生き物を探し歩いております。推しのアウトドアブランドはミレーとホグロフス、愛用の防寒靴はソレルです。本日は、業務の中で特に思い入れのある、生き物探索記をお届けいたします。



2. ある日、突然判別できた猛禽類

入社して2年目、私はとある里山のふもとで猛禽類の調査補助をしておりました。その現場はノスリ、オオタカをはじめとし、クマタカ、ミサゴ、渡りを行うサシバやハチクマも出現する猛禽類のバラエティパックのような場所でした。目下猛禽類の勉強中だった私は、双眼鏡で見つけた個体の種を瞬時に見分けることができず、ひたすら望遠レンズを用いて写真を撮っては拡大し、首を捻りながら種の判別に努めました。その時は覚えたつもりでも、次の調査では記憶がクリアされ、あの子誰かしらと分からずに落ち込む、の繰り返しでした。

4月から毎月現場に通い続け、ある秋の調査の時のことです。遠目に一羽の猛禽類の飛翔をキャッチ。その瞬間、「あ、あの羽の縁の膨らみ具合はクマタカだな」と感じ、実際に写真を撮って拡大すると大正解。その後出現した様々な猛禽類についても、とらえた瞬間にその種を判別することが出来たのです。それはまるで、子供の頃にピアノの練習でいつも同じ箇所でもずっといた曲が突然弾けるようになった時の感覚に似ており、感動したのを覚えています。改めて、「継続は力なり」を実感したこの経験は、私にとって生物調査の技術力を研鑽するモチベーションとなっています。

3. 調査の決め手は「ぶらんぶらん」

その冬の現場で、私たちは職員7人掛かりで越冬中のオオムラサキの幼虫を探していました。

オオムラサキの食樹はエノキ類で、現場には多くのエゾエノキが生育していました。樹の根元の落ち葉を優しく掻き分け、落ち葉の裏に身を潜める幼虫を探のですが、エノキならばどの樹の根本にもいる、という訳ではありません。

私たちは彼らの寝床を効率的に探す方法を考えました。これまで幼虫が見つかった樹の特徴を思い浮かべても、樹高や胸高直径による差があるようには思えません。日当たり？ 斜度？ 下草？…と考えていると、職員の一人が言いました。「枝についた葉っぱが『ぶらんぶらん』している樹の根本に多い気がする！」見上げると、葉の落ちた枝から枯れ葉が一枚ぶら下がり、ぶらんくるくと舞っているのです。先ほど幼虫を見つけた樹を改めて見上げると、まさに『ぶらんぶらん』している葉っぱを発見!!

幼虫は、初夏になると気に入ったエノキの葉に口から粘り気のある糸を吐いて身体を固定し、蛹になります。二週間ほどで羽化し成虫になりますが、蛹になる際の糸が枝にくっ付き、枯れ葉が残っていたのだと思います。今回調査対象とした越冬個体は、樹を降りて落ち葉の裏に隠れるのですが、おそらく幼虫たちに特に人気のある樹というものが存在するのでしょうか。無事に成虫にまでなれた樹を覚えていて、産卵に訪れているのかもしれませんが。

こうして我々はこの発見を生かし、「ぶらんぶらん、あったぞ〜！」の掛け声と共に、冬の森で沢山の幼虫を見つけ出すことができました。このように「生き物の見つけ方」を探し出すことも、私をワクワクさせるこの仕事の魅力です。

建設コンサルタント業界で働きつづけること

大日本コンサルタント株式会社 東北支社 佐野 真利子

1. はじめに

私は入社してから20年以上になります。今回は、このような機会をいただきましたので、建設コンサルタント業界で仕事をする中での楽しさ、働き方の変化について述べさせていただきます。

2. 仕事をする中での楽しさ

建設コンサルタント業界で働く魅力として、女性に限らず技術者としての技術力や知識の向上、インフラ計画設計に携わるやりがいを皆さんも日々感じていると思います。

交通計画系の業務では、ヒアリング調査やワークショップの開催など地域の方々との交流する機会があります。道路計画について率直な意見を聞くことができ、改めて利用者目線の大切さを実感しています。

また、各地の観光名所を訪れる機会でもあり、時間を作って積極的に足を運ぶようにしています。本州最北端の大間崎では、津軽海峡越しの函館の眺望に感動し、プライベートで函館の五稜郭タワーから大間を望んだ際にはさらに感動しました。このように、各地を訪れることは仕事をする中での楽しみになっています。



写真 本州最北端の大間崎

3. 働き方の変化

一方、プライベートでは、結婚や出産、育児などライフスタイルも大きく変化し、仕事をすることの難しさを感じました。特に、育児は成長ごとに生活リズムが変化するため、仕事との調整が難しく自分には無理かなと考えたこともありました。幸い、会社から産休・育児休暇や時間短縮勤務などの社内制度の活用を勧められ、周囲の協力を得ながら現在も仕事をする事ができています。

また、二人目の育児休暇中に、現在の地域に引越しをしました。私の住んでいる地域は、認可保育園の新設や病児・病後施設が整備されているほか、18歳までの児童医療費控除など行政サービスが充実しており、大変助けられました。大きな決断でしたが、ライフスタイルの変化に合わせ、自分の生活環境を変えることも仕事をするためには大切な要素だと感じています。

4. おわりに

冒頭で働きはじめて20年以上と述べましたが、年齢を重ねていく中でこれからもライフスタイルは変化していきます。技術者として日々精進に励みつつ、楽しむこと、変化することを意識しながら仕事をしていきたいと思っています。女性技術者、若手の皆さんも是非、楽しみながら仕事をつづけて欲しいと思います。

業務の振り返りと今後の目標

三井共同建設コンサルタント株式会社 亀田 将 汰

1. はじめに

平成最後の年に入社してからあっという間に4年が経ちました。入社当時から主に河川構造物の設計に携わっています。大学時代は地質学や資源工学を専攻しており、河川にまったく馴染みがなかったのですが、上司や先輩方にご指導いただきながら何とか日々の業務に尽力しています。

このような貴重な機会をいただいたので、改めてこれまでの振り返りと今後の目標について述べていきたいと思います。

2. 業務の振り返り

これまでに携わった業務で印象に残っているものは災害関連業務です。入社1年目の台風19号（令和元年東日本台風）関連の業務に始まり、毎年のように災害関連の業務を経験させていただいています。

通常の業務も同じですが、災害関連業務では特に“早さ”と“正確さ”が求められるのだと感じました。早期に復旧する必要がありますが、設計にはもちろん根拠が必要で、時間が限られるなかで“早さ”と“正確さ”を両立させることに苦労しました。

災害関連業務は設計の成果が直ぐに形になる達成感や社会に貢献している実感を得ることができ、貴重な経験となりました。

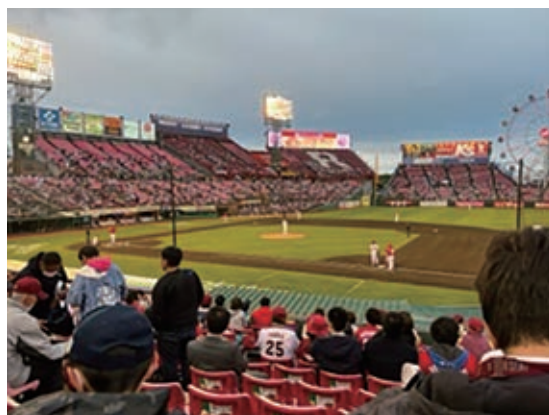
3. 今後の目標

今後の目標は、技術力を高めることやマルチタスクを意識することです。これは前述の“早さ”と“正確さ”に繋がるものだと思います。複数の業務を並行して行いつつ、どの業務も疎かにせずに根拠のある設計を心掛けていきたいと思っています。

4. おわりに

年が経過するごとに後輩が増えていき、形だけが先輩になってしまいました。私が入社した当時の4～5年目の先輩といえば「なんてしっかりしてるんだ！これが社会人か！」と感じたことを覚えています。自分もそうなりたと思っていますが、まだまだです…。カッコいい先輩になれるよう仕事に取り組んでいければと思います。

また、入社2年目から流行していた新型コロナウイルスも今後規制が緩和されていくそうなので、今後は社内外の交流や私生活を充実させることでモチベーションを高めて日々精進していきたいと思っています。



会社の人と野球観戦！ 先発はマー君！

入社からを振り返って

八千代エンジニアリング株式会社 平 嶋 智 希

1. はじめに

2021年の春に八千代エンジニアリングに入社して早くも2年が経過しました。入社当初に仙台に配属となることを知らされ、縁もゆかりもない土地で新しく社会人としての生活を過ごしていけるのか不安だったことがつい先日のように感じます。

学生時代は河川や地下水の塩水化の研究をしており、入社してからはダムの維持管理業務等に携わっています。配属当初はダムについての知識は全くなく、右も左もわからない状態でした。しかし、上司や先輩方のお力添えもあり、ダムについて様々なことを学ぶことができました。お陰様で少しずつではありますが、業務を自分の力でこなせるようになってきています。今後も周囲の方への感謝を忘れずに、日々精進していきたいと思っています。

2. 2年間で振り返って

入社してからの2年間でいくつか業務を経験してきましたが、どの業務でも特に苦戦したことが「文章を書く」ことです。業務を実施するうえで、議事録や打合せ資料、報告書等、文章を書くことは常について回ってきます。

今でも覚えているのは、初めて自分で議事録を作成し、上司に渡した後に添削の文章で真っ赤になった議事録が返ってきたことです。元来、文章を書くことが得意ではないため、多少は修正されるだろうと考えていたのですが、多少どころではない修正が返ってきたのでとてもショックでした。

この件以降、資料を作成する際には、文章構成や口語的表現にならないように意識するようになりました。また、専門知識も当然必要ですが、それを伝えるための基礎的な表現力が最も大事なのだと学びました。

3. 新生活について

冒頭でも記載したように、仙台は私にとって縁もゆかりもない土地であったため、配属を聞いた際には不安がありました。しかし、配属後に初めて出社した際に社内の雰囲気良さを見て、なんとかやっていけそうだなと感じました。また、先輩方によくご飯や飲みものに誘っていただけるのでとてもありがたいです。

初めは、仙台に対して不安がたくさんありましたが、今ではとても過ごしやすくいい場所に配属されたなと思います。

4. おわりに

入社してから2年が経過し、仕事にも大分慣れてきました。しかし、慣れてきた時こそ、大きなミスが発生しやすくなる時期だと思っていますので、今後も慢心せず仕事に取り組んでいきたいです。

また、今年は社会人として3年目になりますが、中だるみせず、常に成長し続けられるように日々精進したいと思います。



【冬の津軽ダム】

絶景ロード & 絶景の駅

株式会社ニュージェック 東北支店 横田悦朗

1. はじめに

たまたま巡り合った絶景や峠道、休憩スポットで出会ったライダーや声を掛けてくれるバイク好きの人との会話、偶然見つけた食堂で食べるラーメン等、これらが楽しみで、休日となるとバイクであちこち出かけています。

以下、私が訪れ、絶景に感動したスポットを紹介します。

2. 絶景ロード

磐梯吾妻スカイラインは、福島県福島市から吾妻連峰を縦走し、猪苗代町に至る全長約29km、平均標高1350m、最高標高1622mの日本初の山岳観光道路です。

日本の道100選にも選ばれており、バイク雑誌等にもたびたび紹介されています。

スカイラインの道中は、森林、湿地帯、湖沼、荒野など変化に富んでおり、途中、たくさんの絶景スポットがあります。

中でも、浄土平の岩肌むき出しで、火山ガスが立ち昇る景色は、まるで別世界に来たかのような感じで、まさに圧巻です。

火山ガスが噴出しているため、浄土平内の道路に車両を停めることはできませんが、上方のビジターセンター側から望む景色は、一見の価値あります。



浄土平の絶景

道路は良く整備されており、カーブが続くワインディングはドライブ好きの人にはもってこいかもしれません。

3. 絶景の駅

大学を卒業して以来、ずっと橋りょう関係の業務に携わっています。今まで、私が携わった橋は、東北をはじめ、北海道、関東、近畿、四国にあります。

ここ近年は、当時を懐かしみ、携わった橋や当時立ち寄った周辺スポットに行くのも楽しみになっています。(年をとったせいかな?)

さすがに遠方は、なかなか行くことができませんが、昨年夏に、約30年ぶりに、設計・施工で携わった松山自動車道の橋を見に行き、ついでに、近くの下灘駅を訪れました。

下灘駅は、愛媛県伊予市(旧双海町)にあるJR予讃線の駅である。駅は国道378号を挟んで伊予灘に面しており、国道が整備されるまでは、ホーム下がすぐ海岸線の「日本で一番海に近い駅」だったそうです。

駅のホームからは見えるものは海だけ! 何一つ遮るものがなく、絵に描いたような絶景が広がっています。駅の周囲には何もなく、時間を忘れて景色だけをのんびり楽しむことができます。

なお、下灘駅は無人駅であり、ホームへの立ち入りも自由となっています。



下灘駅ホームと伊予灘の絶景

4. おわりに

バイクは学生の頃からの趣味ですが、ここ近年は、子供の手が離れたこともあり、泊りがけのロングツーリングにもちょくちょく出かけています。

もう私も、仕事の方はあと何年……という年齢になってきましたが、まだまだバイクの方はやめられそうにありません。これからもセーフティライドでバイクと絶景を楽しみたいと思っています。

～全国大会優勝、日本新記録を掲げて～

株式会社ダイエツ 小 枝 大 樹

1. 「パワーリフティング」

「火を絶やすでないぞォ！」私が大好きなアニメ「キングダム」に出てくる麿公將軍の名言です。この言葉を座右の銘として競技と本気で向き合っています。もはや趣味の領域を超えています。

私は「パワーリフティング」という競技を行っています。パワーリフティングとは、スクワット、ベンチプレス、デッドリフトの3種目で重量を競い合い、そのトータル重量で順位を決める競技です。実際の大会では、各種目3回の試技が認められており、その中の最大重量が記録になります。カテゴリーは体重別・年齢別に分かれており、各カテゴリーで合計挙上重量が最も重かった選手が優勝となります。私はこの競技を4年続けており、直近の成績は、2022年とちぎ国体「一般74kg級」で2位です。

2. きっかけ

小中高と野球をしていました。小学校の頃に友達から誘われ、特にやることがなかったので野球をはじめ、気付いたら高校まで続けていました。とても充実していましたが、心の中でずっと「つまらない、やめたい」と思っていたことは鮮明に覚えています。一日の練習時間は長く、辛いメニュー（ランメニュー、永遠ノック）ばかりで練習に行くのが憂鬱になっていました。それでも、筋トレメニューだけは楽しかったです（学生時代から筋トレは好きでした）。高校野球引退後も学校に腹筋ローラーを持ち込んで休み時間にトレーニング、放課後は公園の鉄棒でトレーニングととにかく筋トレが好きでした。そして、大学に進学し体育の授業でウエイトトレーニングを受講したことでさらに筋トレにどハマりし、某スポーツジムに通い、競技を始めたのがきっかけです。

3. 好きなトレーニングについて

体幹を鍛えるのが誰よりも好きです。中学校時代に映画「ロッキー」を観て、主人公がドラゴンフラッグという種目をしている姿を見て衝撃を受けました。以来、体幹トレーニング（ドラゴンフラッグ、腹筋ローラー）を徹底的に行い、完璧なフォームでできるようになりました。



写真-1 ドラゴンフラッグ練習風景



写真-2 腹筋ローラー練習風景

4. 競技の魅力

正しい練習をすれば扱う重量がどんどん伸びる点は魅力であると感じています。スクワット、ベンチプレス、デッドリフト（BIG3）は周辺のスポーツジムで気軽に練習できますので、趣味で始めて競技を始める人がほとんどです。また、いわゆる筋トレですので筋肥大、シェイプアップや健康にも効果があります。

5. 普段の練習

練習時間は2～3時間程度を週6で行っており、メニューはコーチにお願いして作成してもらっています。パワーリフティングの練習は、筋肥大ではなく扱う重量を伸ばすことが目的なため、少し特殊なメニュー（神経を強くするための練習）を行います。主な練習方法として、運動時の主観的運動強度（REP）を取り入れた練習方法があります（説明は難しいので省略します）。



写真-3 とちぎ国体 スクワット245kg

6. 最後に

野球をしていた頃には芽生えなかった「心の底から楽しい」がこの競技にはあります。そして、去年は人生で初めて全国大会に出場し、2位の結果を残すことができました。今後の目標としては、全国大会で優勝かつ種目別で日本新記録を樹立することです。普段の練習は頻度とボリュームが多く、練習漬けの毎日ですが、目標達成のために今後も火を絶やさずに本気で向き合っていきます。



写真-3 とちぎ国体 デッドリフト270kg

2022年とちぎ国体結果 一般74kg級 20人中2位

| | |
|--------|-------|
| スクワット | 245kg |
| ベンチプレス | 130kg |
| デッドリフト | 270kg |
| トータル | 645kg |

未来社会を創造する 100 年企業を目指して

株式会社テイコク 東北支店長 森 英 樹

1. はじめに

株式会社テイコクは、国が大きく変わりつつある昭和29年3月（1954年）に創業して以来、70年を迎えようとしております。この間に、創業時の『帝国測量株式会社』から昭和57年（1982年）に『株式会社帝国建設コンサルタント』へ、さらに平成24年（2012年）には『株式会社テイコク』へと社名を変え、社会情勢の変化や人びとが求めるニーズに応じて、しなやかに進化しつつ、顧客や社会の様々な課題を解決するソリューションパートナーへと着実に成長してまいりました。

近年、『地球温暖化の問題』及びそれに関連する『大規模災害』、『エネルギー問題』など地球を取り巻く様々な問題が存在します。そのなかで、当社は創業時の理念である『信用第一』を胸に、「誠実・研鑽・健康」を社訓に掲げて、「人びとと社会の福利」に向き合いながら、長年に亘って培われた確かな技術力と創造性を活かして、人びとのより良い生活環境の向上と地球環境の保全との両立に向けて最大限の貢献をしていく所存です。

2. 当社の事業組織体制

当社は総合コンサルタントとして、①インフラ・防災分野、②プランニング・建築分野、③環境分野、④調査計測分野、⑤情報分野等を事業戦略の柱として位置付けております。

インフラ・防災分野では、既存施設の耐震化や代替施設の提案などにより、信頼性や冗長性の高い社会資本の整備を目指しております。また、計画・設計にBIM・CIMを積極的に導入することにより、ICTを駆使して事業全体の効率化を図っております。

プランニング・建築分野では、各種マスタープランの策定や、新たな事業手法の積極的な提案に取り組んでおり、PPP/PFI等の公民連携事業や、都市計画・まちづくり及び交通政策、それらを統合したスマートシティ等に注力しております。

環境分野では、地球温暖化対策の国際的枠組みに基づく国の再生可能エネルギー政策を踏まえ、持続可能な社会形成へ寄与するための事業に注視し、超スマート社会における分散型エネルギーシステムの構築や脱炭素化、多様な企業との連携による付加価値の醸成を通じて事業を展開しております。

調査計測分野は、センシング技術の集約により、IoT、3Dモデルの活用、AIの導入など、これらを含むDXを推進し、ビッグデータとICTを活用して、社会のニーズに答えた新たなビジネスモデルの構築を目指しております。

情報分野では、急速な発展を遂げるICTの積極的な利活用や、社会に新たな価値・変革をもたらすSociety5.0の実装を推進し、生産性の向上、技術・サービスの高度化、事業領域の充実に取り組んでおります。

3. 東北支店のあゆみと今後

東北支店は、東日本大震災後の復興に少しでも貢献したいとの思いから平成24年（2012年）に開設、気仙沼市の地区計画・景観計画、大船渡市の集団移転業務などを受注しました。令和元年東日本台風後は、宮城県の浸水想定区域図作成、河川整備計画関連業務を行い、東北エリアでの社会資本整備に貢献して参りました。

今後も微力ながら東北エリアでの社会資本整備、国土強靱化に貢献したいと考えております。

4. おわりに

現在、私たち人類を取り巻く環境は厳しいものがあります。そんな課題多きこの時代に、建設コンサルタントの業務が社会に夢と希望を与え、その実現によりすべての人びとが幸せになれると確信しています。

何卒、引き続きご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

以上

東北支部 情報部会紹介

情報部会長 小澤 宏二

1. はじめに

国土交通省では、今年度から設計業務においてBIM/CIM活用の原則適用を開始しました。また、情報共有システム（ASP）の活用や現地確認・立合等をリモートで行う遠隔臨場など、インフラ分野のDX推進が加速しています。インフラ分野のDX推進は業務効率の向上だけでなく、建設業界全体の魅力を向上させ、業界を目指す若い人材が増えることも期待され、その環境整備は働き方改革や担い手不足という懸案事項の解決策としても大いに期待されています。

建設コンサルタンツ協会東北支部情報部会では、インフラ分野のDX推進に向けた環境整備等を支援するための各種情報の収集と発信、関連活動を行っています。

2. 情報部会の活動概要

情報部会の活動には大きく2つの役割があります。1つは、支部ホームページの利用拡張・維持管理であり、各種講習会やイベントなどの開催案内・関連資料等をタイムリーに掲載するとともに、会員向けページでは会員の利用促進を図るための機能拡張や維持管理等を行っています。2つ目は、協会本部との共催による講習会（GIS講習会、CIMハンズオン講習会等）の開催を支援するとともに、BIM/CIMをはじめとする生産性向上とデジタル技術の活用に資する勉強会等を開催し、関連情報の収集及び提供を行っています。支部主催の研修会・講習会のWeb配信等の対応支援も情報部会の役割の一つです。

3. インフラ分野のDX推進の環境整備に向けて

情報部会では、定期的にソフト関連ベンダーのご担当者を講師として招き、GIS、BIM/CIM等の勉強会を開催し、支部HP会員向けとして情報発信しています。

協会ではインフラ分野DXの大きな柱としてBIM/CIMを捉え、単に3次元設計というものでなく、設計から施工・維持管理へのプロセスを効率化する重要な役割を建設コンサルタントが担っていると考えています。対応に向けてはハード・ソフトの環境づくりと、そのパフォーマンスを活かす体制づくり、人材育成が求められ、情報部会では先進事例の情報発信と共有を通して協会各社の支援活動に取り組んでいます。

委員（令和4年度委員会）

| 役職 | 氏名 | 所属 |
|------|-------|------------------|
| 部会長 | 小澤 宏二 | いであ（株） |
| 副部会長 | 松尾新二郎 | 日本工営（株） |
| 委員 | 有田 茂 | いであ（株） |
| 委員 | 石田 樹里 | 日本工営（株） |
| 委員 | 石橋 謙亮 | （株）東京建設コンサルタント |
| 委員 | 猪野 晃 | 大日本コンサルタント（株） |
| 委員 | 岩淵 孝志 | （株）ニュージェック |
| 委員 | 小原 洋 | 八千代エンジニアリング（株） |
| 委員 | 片倉健太郎 | パシフィックコンサルタンツ（株） |
| 委員 | 菊池 皓次 | セントラルコンサルタント（株） |
| 委員 | 草薙 大 | （株）復建技術コンサルタント |
| 委員 | 古賀 秀幸 | （株）オリエンタルコンサルタンツ |
| 委員 | 宮坂 好彦 | （株）建設技術研究所 |

4. おわりに

インフラ分野のDX推進は、従来の生産プロセスを大きく変革し働き方をより効率化するなど、デジタル技術によるスマート社会の実現を目指すものです。建設コンサルタントの魅力を向上させる社会の実現に向けて、その一端を担う重責を改めて認識して取り組んで参りたいと考えます。

令和4年度 講演会報告

広報委員（株式会社 建設技術研究所 東北支社） 大場 秀行

1. はじめに

令和4年11月22日(火)、『震災復興が生み出すこれからの東北～復興道路・復興支援道路の果たす役割～』と題して、パレスへいあん（仙台市青葉区本町）で講演会が開催されました。

今回の講演会は、昨年に引き続きコロナ禍での開催という事で、会場への参加者は50名を上限とし、会員会社社員の方々には後日録画にて視聴いただくという形式での開催でした。

以下に開催状況をご紹介します。

2. 講演状況

13時30分、菊田広報副委員長の司会にて講演会が開催されました。

最初に建設コンサルタント協会東北支部菅原支部長の主催者挨拶があり、直ぐに講演会が始まりました。

一人目の講演者は、一般社団法人 気仙沼地域戦略 プロモーションリーダーの玉川千晴様です。玉川様は、平成24年に気仙沼市へUターンし、三陸新報社で6年間紙面づくりを経験した後、平成30年9月から現在の職場で活躍されています。

今回の講演は、「気仙沼市の観光復興と復興事業の関連・今後の展開」と題し、気仙沼市の震災前後の産業と、震災復興で整備されたインフラがもたらす集客の可能性を説明され、稼ぐ地域経営の仕組みを作り、観光を柱とした地域経済の活性化に向けた各種取り組みを行っていることについてご紹介頂きました。具体的には、今まで経済活動がバラバラだった市行政、観

光協会、商工会議所、リアス観光創造プラットフォームを一元化し、それぞれの役割分担を決め連携することで観光産業を稼げる産業へ押し上げるため、観光客へクルーカードを発行し、それを活用した顧客データの分析によるニーズの把握とこれによる商品開発や企画の立案、ファンの拡大に努める等、地域全体で観光業を盛り上げる活動を行っているとの事でした。



講演される玉川様

二人目の講演者は宮古市長の山本様です。山本様は、本業が歯科医だそうですが、宮古市の歯科医師会副会長、田老町教育委員会委員、宮古市教育委員会委員、宮古市教育委員会教育委員長を経て平成21年より宮古市長になられています。

講演は、「復興その先へ ～宮古市の持続可能なまちづくり～」と題し、田老地区の防潮堤建設と震災復興後のまちづくりについてお話を頂きました。

田老地区は、明治三陸津波や昭和三陸津波を受けて建設されてきた10mの防潮堤では東日本大震災津波を守れず、海側の第一線堤を14.7mへ嵩上するとともに弱点であった第二線堤と接触する部分を引き離す防潮堤への改良を行い、大震災規模の津波に耐えられるようにし、これを超える津波に対しては高台への避難により命を守ることとしているとのことでした。また、震災に対する心のケア、多重防災型まちづくり、震災の記憶伝承も進めていくとのことでした。

更に、復興事業による三陸沿岸道路・宮古盛岡横断道路が整備されたことで、宮古八戸間3.1hrが2.0hr、宮古仙台間5.5hrが3.5hrへ大幅に短縮され、宮古盛岡間も事業中の田鎖墓目道路、箱石達首部道路が完成すれば2.0hrが1.0hrで繋がることになり、産業・経



司会をする菊田広報副委員長



主催者挨拶をする菅原支部長

済への効果が期待されていること、これを活かすため広域的な水産業の活性化、大型クルーズ船寄港港となっている宮古港に整備した「しおかぜ公園」の出崎ふ頭から浄土ヶ浜を結ぶ遊覧船や、旧市庁舎跡地を活かした「うみどり公園」の整備など観光経済の活性化、サーモンの海面養殖等「つくり育てる漁業」の推進、持続可能な公共交通の構築、エネルギーの地産地消化等、持続可能なまちづくりへ邁進しているとお話を伺いました。



講演される山本宮古市長

三人目の最終講演者は、東北地方整備局企画部長の中平様です。中平様は、平成4年に建設省へ入省され、北陸地整の河川計画課長、九州地整武雄河川事務所長、本省河川局砂防部総合土砂企画官、北陸地整河川調査官、愛知県建設部河川課長、内閣官房総合海洋政策本部事務局参事官、岩手県土整備部長を歴任され、1年間の国土技術研究センターを経て令和4年より現職に就いておられます。

講演は、「震災復興の現状と今後」と題し、近年の豪雨災害を踏まえた治水対策と令和4年豪雨での災害状況とその対策及びこれまでの治水事業の効果についての話、河川・海岸の復旧復興、国営追悼祈念施設、復興道路・復興支援道路についてお話を頂きました。

近年の豪雨について、過去46年を見てもここ数年は東北地方の時間雨量80mmを超える豪雨が頻発しており短時間雨量強度が増していること、ここ10年で東北6県の大半の地域で1時間雨量の最大値が更新されていること、令和4年8月豪雨では、最上川の上流域で昭和42年8月の既往最大の羽越豪雨を超える水位を記録したこと、にも関わらず羽越豪雨での浸水面積約13,200hrが令和4年豪雨では約130hrに激減し、昭和42年より進められてきた河川事業の効果が大きく発揮されたこと、併せて河道掘削、遊水地整備やダム建設以外にも災害対策の現地情報連絡が自治体と整備局間で密にできる様にするためのリエゾンの派遣や災害対策協定による地域の建設業による迅速な災害状況把握や緊急復旧対応、他地整からの応援も含めた緊

急時の排水等ソフト対策にも力を入れていることを説明頂きました。



講演される中平企画部長

また、復興道路の三陸沿岸道路359km、復興支援道路の宮古盛岡横断道路、東北横断道（釜石～花巻）、東北中央道（相馬～福島）の延長191kmが令和3年12月に全線開通したこと、これらの道路は震災前が30年で173kmの共用とそれぞれ年約4km程度のペースであったものの、震災後は復興道路が年約21km、復興支援道路が年約16kmと驚異的なスピードで整備されてきたこと、これらの整備により都市間の移動時間の大幅な減少、輸送時間の短縮による水産物の高いシェアの維持、朝獲れ海産物を昼には関西で販売できるなど物流環境を激変させる効果や観光客が震災前の水準へ戻りつつあり増加の方向へ向いているといった効果があったことなどが話されました。

さらにこれらの道路の更なる利活用に向け、「道路の整備」から「利活用のフェーズ」へ移行し、関係自治体と広域連携による地域活性化の戦略を検討・展開しているとのことでした。また、今後の課題として高規格道路の縦軸+横軸の整備によるミッシングリンクの解消や道路上の休憩施設の増設や現パーキングの無トイレの解消なども挙げていました。

三名のご講演により、復興・復興支援道路が地域経済の活性化に大きく寄与していることを伺い知ることができ、大変有意義な講演でした。最後に菊池広報委員長による閉会挨拶で3時間半に及んだ講演会も幕を閉じました。



閉会挨拶をする菊池広報委員長

3. 終わりに

今回も昨年に引き続きコロナ禍での開催で人数制限がありましたが、来年こそはコロナ禍が解消され例年通り盛大な講演会となることを祈っています。

令和4年度 意見交換会について

建設コンサルタンツ協会の重点活動としております発注者との意見交換会は、建設コンサルタンツ協会本部の要望と提案事項の他、支部会員からのアンケート調査、発注者の実態を把握・調査したものを加えて、役員会に諮り議題を決め、令和4年10月13日秋田県との意見交換会を始めに令和4年11月17日の岩手県で終了しました。

1. 概要

各発注者との意見交換会の開催時期及び議題の概要は表1のとおりです。

2. 意見交換会における議題（協会からの要望と提案）

- I. 担い手確保・育成のための環境整備
- II. 技術力による選定
- III. 品質の確保・向上
- IV. 「DX推進の環境整備」
- V. その他（業務量制限の判断基準について：東北地方整備）

3. 意見交換会で進捗が図られた内容

今年度、建コン東北支部として進捗が図られた内容は以下のとおりと考えられる。

- ①国交省東北地方整備局に要望した以下の項目は、意見交換会後に局から前向きな対応が示されており、昨年度から更なる前進となった。
 - ・履行期限の平準化と平準化国債、機動的国債等の積極的な活用及び適切な工期延期
 - ・プロポーザル方式や総合評価落札方式の1月発注
 - ・大規模な災害発生時の災害復旧業務の優先対応
 - ・「若手・女性技術者配置促進方式」の積極的試行
 - ・PPP受注制限の緩和措置の推進
 - ・国土交通省登録資格の組合せ加点評価の検討
 - ・情報共有システム（ASP）の活用推進
 - ・年度末の手持ち業務量の緩和措置の検討
- ②自治体からの前向きな回答
 - ・青森県：技術提案書の提出期限の延長、最低制限価格の引き上げ等
 - ・岩手県：失格基準価格及び価格評価方法の見直し、同種業務の緩和等
 - ・秋田県：賃上げ評価項目の改善、総合評価における表彰の加点、歩掛協議会の設置等
 - ・宮城県：業務評定点の加点法の改善、低入札の抑制、手持ち業務量の緩和等
 - ・山形県：発注者協議会での市町村に対する発注方式講習会の開催等
 - ・福島県：優良業務表彰の加点、入札調書のWEB検索、災害査定後の事後検証等
 - ・仙台市：総合評価落札方式の導入、採用見積の公表等
- ③令和4年度に宮城県との災害協定条文改定が実現し、意見交換会においても岩手県及び福島県との災害協定改定についても議論されており、今後、進展が期待される。

表1 意見交換会の開催時期及び議題の概要

| 発注機関 | 開催概要 | 議題等 |
|------|-------------------------------------|--|
| 秋田県 | 開催日 出席者 他8名 菅原支部長 他19名 | R4年10月13日(木) ・被災地域に対する迅速かつ適切な災害対応と改正労働基準法遵守との両立（業務中止等）、秋田県におけるインフラ整備の安定的な事業量の確保、総合評価落札方式における賃上げ評価項目の運用状況について要望。 ・難易度の高い業務におけるプロポーザル方式への積極運用、技術提案を求める総合評価落札方式の試行、総合評価落札方式の更なる採用増加、予定価格の事後公表、最低制限価格の導入を要望。 ・点検・診断における仕様や積算条件の明確化とそれに基づく実勢価格に応じた積算価格の設定、歩掛がない或いは新技術を伴う工種における担当者会議の設置を要望。 ・各種技術基準類の整備と電子化・Web公開などの推進、積極的なBIM/CIM対象業務の発注と課題の共有を要望。 |
| | 開催日 出席者 他10名 菅原支部長 他24名 | R4年10月18日(火) ・履行期限(納期)の平準化と標準履行期間の確保への取組み強化、発注時における条件明示の徹底による標準履行期間を踏まえた適切な履行期間の確保、被災地域に対する迅速かつ適切な災害対応（費用面を含む）と改正労働基準法遵守との両立、実際の作業に見合った積算歩掛の適用と実際にかかった費用の適切な精算、インフラ整備の中長期事業計画の策定・公表と安定的な事業量の確保を要望。 ・「業務内容に応じた適切な発注方式の選定（斜め象限図）」におけるプロポーザル方式・総合評価落札方式などの改善と適正な運用、業務・技術者表彰の県外業者への運用改善、それに基づくプロポーザル・総合評価落札方式における企業選定の運用を要望。 ・電子入札システム、電子契約システムを活用した「書類の電子化（電子決済、ペーパーレス化）」「手続きの簡素化」「情報の共有化」「移動・郵送等の時間の短縮」の促進を要望。 |
| 宮城県 | 開催日 出席者 他6名 菅原支部長 他21名 | R4年10月20日(木) ・技術者の負担軽減のための発注時期の分散の推進と納期の分散または平準化、新規工種の当初落札率の適用外、保留通知時の入札価格の全社公表と落札決定予定日の設定、ウィークリスタンスの推進、発災対応時の業務中止命令・工期延期・管理技術者の交代要件の緩和、旅費・滞在費用の精算等を要望。 ・プロポーザル方式の積極的な採用及び斜め象限図の積極的な運用、「同種業務の成績」評価の改善、持ちち業務制限の緩和、一括審査方式の導入、調査基準価格及び失格判断基準額の引き上げ、低価格入札に対する抑止力の強化、成績調書の公表を要望。 ・受発注者合同現地踏査の実施、必要に応じた三者会議の実施、ECI方式など合理的な入札契約方式の導入を要望。 ・電子契約システムを導入、情報共有システムの積極的な活用、「各種技術基準の電子化」「積算基準の電子化」によるWeb公開を要望。 |
| | 開催日 出席者 他7名 菅原支部長 他21名 | R4年11月1日(火) ・復旧復興、減災・防災、担い手確保、DXの強力な推進のために引き続き安定的な事業量の確保、履行期限(納期)と標準履行期間の確保への平準化の取組み強化及び翌債・国債の目標設定、プロポーザル方式・総合評価落札方式業務の公示・提案時期の分散化、受発注者協働による災害対応に向けた環境整備と災害査定の際の簡素化及び必要経費の精算、「土木設計業務等変更ガイドライン」の補足資料の策定、若手・女性・シニアなど多様な技術者の活用・育成のための入札・契約制度の改善、事業促進PPP業務制度の改善を要望。 ・プロポーザル方式・総合評価落札方式等の適確な運用・改善、国土交通省登録資格組合せ評価試行の適切な運用、地域コンサルタントの技術力向上が図れる仕組みの導入促進を要望。 ・品質確保・向上に資する施策の継続的改善（的確な条件設定・確認、照査の充実等）、詳細設計における施工計画の明確化と適切な費用計上、ECI方式の検討と入札制度を要望。 ・情報共有システム（ASP）の積極的な活用、発注者のテレワーク環境整備の加速化と各種技術基準類の電子化、Web公開などの推進、持ちち業務量の緩和措置を要望。 |
| 東北地整 | 開催日 出席者 他10名 菅原支部長 他25名 | R4年11月2日(水) ・履行期限(納期)の平準化と履行期間の確保、ワークライフバランスの改善に向けての施策の推進・強化、被災地域に対する迅速かつ適切な災害対応、大規模災害における災害査定時の市町村を含めた広域連携での支援体制・仕組みの構築、適切な歩掛の設定と仕様・積算条件の明確化、または見積による積算等適切な対応、設計変更ガイドラインの適切な運用と設計変更、女性・シニアなど多様な技術者も含めた担い手の確保・育成に向けて福島県の支援を要望。 ・プロポーザル方式・総合評価落札方式の拡大、入札結果の公表の改善と迅速化、若手技術者・女性技術者育成のための入札・契約制度の改善、業務成績評定や技術者表彰の活用、地域コンサルタントの技術力向上が図れる仕組みの導入促進を要望。 ・設計条件明示チェックシートによる設計条件等の明確化、及び効果的な運用・活用、三者協議、条件明示の徹底、合同現地踏査の実施、赤黄チェックも含む照査の確実な実施、点検・診断、補修・補強設計における新技術等を採用する際、実勢価格に応じた積算価格の設定を要望。 ・電子入札システム、電子契約システムの活用、情報共有システム（ASP）の積極的な活用、発注者のテレワーク環境整備の加速化、各種技術基準類の電子化・Web公開などの推進、BIM/CIM適用事業拡大及び対象業務の拡充を要望。 |
| | 開催日 出席者 他11名 菅原支部長 他18名 | R4年11月8日(火) ・履行期限(納期)の平準化と標準履行期間の確保、変更契約時期の適正化、実態に即した適切な費用計上と特記仕様書への具体的記述、総合評価方式における、技術提案書作成期間の延長、災害申請作業の合理化、青森県におけるインフラ整備の安定的な事業量の確保、最低制限価格（調査基準価格）及び失格判定基準のさらなる引き上げ、新規工種の設計変更における落札率の適用除外、若手技術者の管理技術者配置について配点（評価点）大幅引き上げを要望。 ・優良建設関連業務表彰件数の拡大、調査基準価格を下回る価格に対する価格点加算の廃止、価格のみによる一般競争入札の撤廃、共同設計方式（JV）制度の導入を要望。 ・合同現地踏査の実施、設計条件明示チェックシートの活用拡大、詳細設計完了後、工事に至る段階（三者協議含む）での追加業務、修正設計の実施（契約、工期設定）と適切な費用計上を要望。 ・電子契約システムの構築、活用、情報共有システム（ASP）の積極的な活用、テレワークの活用と環境整備の推進を要望。 |
| 福島県 | 開催日 出席者 他8名 菅原支部長 他20名 | R4年11月15日(火) ・履行期限(納期)の平準化と標準履行期間確保への取組み強化、ワークライフバランスの更なる改善に向けての施策の推進・強化を要望。 ・総合評価落札方式の導入、見積徴収時の歩掛の事前開示を要望。 ・一般競争入札対象範囲の拡大、全業務への最低制限価格の設定を要望。 ・電子入札システムを活用し、「書類の電子化（ペーパーレス化）」「手続きの簡素化」「情報の共有化」「移動・郵送等の時間短縮」の促進を要望。 |
| | 開催日 出席者 他9名 菅原支部長 他20名 | R4年11月17日(木) ・履行期限(納期)の平準化と標準履行期間の確保への取組み強化、災害対応時の柔軟な工期延長（一時中止を含む）や管理技術者の交替等の柔軟な手続き、災害協定書の改定、災害査定の効率化、新規工種の設計変更における適用落札率の適正化、見積徴収時の予定価格設定方法の改善、低入札を抑制する取り組みと失格基準価格や価格評価点を含めた総合的な検討、事業促進PPP、監理業務（PM・CM）等の拡大、一般競争入札案件の一括審査方式の採用・拡大、発注見直し、入札調書、積算内訳書の事後公表の推進と公表方法の改善を要望。 ・総合評価落札方式拡大の継続、「業務内容に応じた適切な発注方式の選定（斜め象限図）」によるプロポーザル方式・総合評価落札方式等の適確な運用・改善、総合評価落札方式（簡易1型（技術提案あり））の採用拡大、地域コンサルタントの技術力向上が図れる仕組みの導入促進を要望。 ・受発注者合同現地踏査の実施、条件明示チェックシートの作成・活用、工事調整会議（三者会議）の活用、BIM/CIMの活用拡大を要望。 ・電子契約システムの構築、情報共有システム（ASP）の積極的な活用、テレワーク環境整備と「各種技術基準の電子化」「積算基準の電子化」によるWEB公開を要望。 |

秋田県建設部との意見交換会

会場：ホテルメトロポリタン秋田



山形県県土整備部との意見交換会

会場：山形県自治会館



宮城県土木部との意見交換会

会場：TKP ガーデンシティ仙台勾当台



東北地方整備局との意見交換会

会場：パレスへいあん



福島県土木部との意見交換会

会場：ホテル福島グリーンパレス



青森県県土整備部との意見交換会

会場：ウェディングプラザアラスカ



仙台市都市整備局との意見交換会

会場：TKP ガーデンシティ仙台勾当台



岩手県県土整備部との意見交換会

会場：岩手県産業会館



令和4年度 河川講習会 活動報告書

(一社) 建設コンサルタンツ協会東北支部 技術部会 河川専門委員会

主催：(一社) 建設コンサルタンツ協会東北支部 技術部会

共催：国土交通省 東北地方整備局

参加者：国土交通省 東北地方整備局 9名、建設コンサルタンツ協会 57名（合計66名）

日時：令和4年11月17日（木）13時20分～16時30分

場所：ハーネル仙台2階 松島A, B

講演内容：①東北地方整備局 板屋河川部長

『「地域を“みず”から守る。東北流域治水」～流域治水の実践・深化～』

②福島大学大学院 共生システム理工学研究科 川越教授

『持続可能な流域治水の実践にむけた検討について』

技術発表：①福島河川国道事務所 松葉調査第一課長

『釈迦堂川における流域治水の取り組み事例』

②(株) オリエンタルコンサルタンツ 関東支社 河川砂防・港湾部 梅川氏

『「流域治水」もまちづくり～水害リスクを踏まえたまちづくりの推進～』

感想：講演では、流域治水の概要や関連する施策、水害の激甚化、気候変動や人口減少、土地利用などの将来変化を見据えた流域治水の課題等について講演があった。技術発表では、釈迦堂川で進められている流域治水の取り組みとして河川整備基本方針の変更や流域水害対策検討会などの事例、流域治水をまちづくりに取り込んで推進していくための取り組みなどについて紹介があった。いずれも流域治水をさらに推進していくために必要となる最新の知見や動向について学ぶことができ、河川技術者にとって有意義な講習会であった。



司会 佐藤 亮 副委員長



開会挨拶 大橋 忠夫 技術部会 副部長



講演 板屋 英治 東北地整 河川部長



講演 川越 清樹 福島大学大学院 教授



技術発表 福島河川国道事務所



技術発表 (株) オリエンタルコンサルタンツ



講演での質問の様子 (1)



講演での質問の様子 (2)



技術発表での質問の様子 (1)



技術発表での質問の様子 (2)



閉会挨拶 川面 顕彦 東北地整 河川計画課長



会場の様子



令和4年度 道路専門委員会・構造専門委員会合同技術講習会

技術部会 道路専門委員長 岡田 篤

1. 日時・場所

- ・令和4年9月7日（水）（13：00～16：45）
- ・ハーネル仙台2階 松島

2. 講習会形式・参加者数

- ・対面方式、57名

3. 主催

- ・技術部会道路専門委員会及び構造専門委員会

4. 講習会主旨

担当技術者の技術力向上を目的として、毎年「道路事業を取り巻く最近の話題」をテーマとした講習会を開催しております。

コロナ禍となり、近年2年間の実施が見送られることとなりましたが、今回は3年ぶりに開催することとなりました。

5. 講習題目と講師

講演Ⅰで「コンクリート舗装版厚設計とその留意点」と題しまして、東京農業大学、生産環境工学科教授の小梁川 雅（こやながわ まさし）様に御講演をいただきました。



講演Ⅱで「自動運転に関する最近の話題」と題しまして、秋田大学土木環境工学コース教授の浜岡 秀勝（はまおか ひでかつ）様に、御講演をいただきました。



6. 講習会の内容

(1) コンクリート舗装版厚設計とその留意点

道路舗装に関しては、これまでイニシャルコストが安価であること、補修が容易であることなどから、アスファルト舗装が主に選定されてきました。

しかし、舗装の維持修繕費が20年前と比較して大幅に減少しており、ライフサイクルコストを考慮した舗装の種類・構成の採用が不可欠となっている現状から、セメントコンクリート舗装の今後の品質向上と普及拡大につなげるため、コンクリート舗装版厚設計とその留意点ということで、設計にあたっての最新情報を御講演いただきました。

主な講演内容は以下の通りです。

- ・コンクリート舗装の長所
- ・適用にあたっての留意点
- ・コンクリート舗装の構造
- ・路盤設計の手法
- ・コンクリート版の設計と構造解析

- ・必要な設計条件について
- ・疲労設計について
- ・コンクリート版厚設計の留意点
- ・構造細目について
- ・目地割りについて
- ・設計変更について
- ・盛土区間への適用について
- ・CRCP（連続鉄筋コンクリート）舗装の版厚設計
- ・より永くコンクリート舗装を使うためのポイント
- ・普及に向けて

- ・レベル3自家用車(ホンダレジェンド)の試乗概要
- ・高速道路における自動運転、隊列走行について
- ・限定地域や道の駅を拠点とした自動運転について
- ・各地での実証実験の紹介
- ・自動運転社会を見すえた道路インフラ
- ・自動運転実現のための留意事項



▲ 小梁川先生講習状況



▲ 浜岡先生講習状況

(2) 自動運転に関する最近の話題

道路の計画・設計に携わる技術者として、道路を走行する車両の最新技術は重要な情報となります。

交通事故の減少、渋滞の緩和に向けて、安全で快適な道路を構築するとともに、自動運転の技術を向上させる必要があり、その様な観点から自動運転に関する最近の話題ということで、主に以下のような内容で御講演いただきました。

- ・自動運転とは
- ・自動運転のメリット、デメリット
- ・ドライブシミュレータを用いた運転操作の把握と評価
- ・自動運転社会実現へのシナリオと追い風
- ・自動運転に対応した道路空間

7. 所感

これからの道路事業に携わる上で、維持管理費の低減、ライフサイクルコストを考慮したコンクリート舗装の需要は高まる可能性があります。

そのような状況の中、今まで圧倒的にアスファルト舗装が多く採用されてきた経緯より、コンクリート舗装に関する最新の情報や適用および設計における留意点については、今後の舗装を考える上で、大変参考となる内容でした。

自動運転については、急激に進んでいる技術開発や社会実験の状況を知ることが出来て、大変興味深いものでした。また、今後のインフラ整備にあたっての重要なヒントが得られたと考えます。

自動運転社会が進むことによって、インフラ整備においても、将来的には利用車両に合わせた幅員構成の再編等によって、より安全で利便性が高いサービスが提供できるものと感じました。

東北地方整備局若手職員×建コン協若手の会交流会

株式会社福山コンサルタント 加藤 優平

1. R4年度国交省交流会

建コン東北支部若手の会（以下、建コン）では、令和元年度から東北地方整備局（以下、国交省）の若手職員と交流会を実施している。発注者・受注者の垣根を越えて意見交換を行い、建設業界のさらなる発展を目指すことを目的としており、今年度で4回目の開催となった。以下に概要を示す。

■国交省交流会の概要

【日 時】 令和4年11月28日(月) 14:30~17:55

【方 法】 対面開催@仙台市中小企業活性化センター
(仙台駅前アエル6F) セミナールーム2

【参加者】 国交省(11名)、建コン(10名) 計21名

【内 容】 グループディスカッション、発表・質疑応答
「テーマ1：お互い(国交省・建コン)に求められるもの」
「テーマ2：私の働き方宣言

～Well-beingの実現へ向けて～

テーマ1について、東北地方の発展という共通する目的のもと、立場が異なる国交省職員と建コン技術者がより協力的に事業に携われるように意識の改革・醸成が図れるテーマとした。

テーマ2について、ライフスタイルや働き方自体の価値観が変化しつつある中で、それぞれの働き方の紹介や理想の働き方などについて意見交換を行い、双方の「Well-being」を目指すためのアイデアを共有できるテーマとした。

2. 交流会で挙げられた意見および講評

グループディスカッションの後、各グループから発表があり、挙げられた意見が共有された。

■テーマ1：4つのキーワード（①コミュニケーション、②業務、③東北地方の発展、④人材・技術力向上）で分類される意見が多く挙げられた。特にコミュニケーションに関連した意見が多く見られ、作業内容を共有し無駄なく必要な成果を得るために、密なやりとりができる関係性を築く必要があるという意見や、目的意識の共有が重要という意見があった。

■テーマ2：4つのキーワード（①ワークライフバランス、②理想の働き方、③未来の私、④ダイバーシ



写真1 全体集合写真

ティ)で分類される意見が多く挙げられた。興味深い意見として、ワーク・ライフの配分やテレワーク等の制度利用を個々人の裁量に委ね、一人ひとりの多様な働き方に合った勤務選択方式を望む意見があった。

■講評：企画部 企画調整官 村田様より、以下の講評を頂いた。「テーマや立場毎に多様な視点で意見交換ができた良い機会となったのではないかと感じている。立場は異なるが同じ建設業界であるため、協働に向けて交流を密にしてほしい。」

3. 参加者からの感想

- ・国交省・建コンという異なる立場の方々と意見交換を通して、相手の仕事内容やインフラのライフサイクルを理解した上で仕事を進めることの重要性を再認識した。
- ・ダイバーシティを考慮し個性を活かした働き方（個人単位での仕事方法の選択等）が可能になれば、Well-beingの実現へ近づくのではないかと感じている。
- ・有意義な交流会だった。今後も交流を継続し、それぞれの役割などを議論していきたい。

4. おわりに

互いの「がんばり」を伝えあい、そのうえで建設業界をよりよいものにしたいという熱い想いが飛び交う交流会となった。「密なやりとりができる関係性を」という意識を、国交省・建コンの若手職員間に拡げるためにも、同様の交流会を継続して開催していきたい。

〔支部だより〕

10月3日(月)

経営分析説明会

場 所／ハーネル仙台

主 催 本部総務部会財務委員会

受講者10名

10月5日(水)

福島県土木部専門研修【監督業務(設計)「地すべり
対策工について」へ講師派遣

講 師／橋本 智雄(中央開発株)

10月13日(木)

秋田県との意見交換会

場 所／ホテルメトロポリタン秋田

秋田県 田中 建設部長 他 8名

協 会 菅原支部長 他 24名

議 題／建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力による選定
- (3) 品質の確保・向上
- (4) DX推進の環境整備

10月14日(金)

福島県土木部技術講習会「BIM/CIMの基礎(仮)」

へ講師派遣(Web開催)

講 師／市川 健(株復建技術C)

10月18日(火)

山形県との意見交換会

場 所／山形県自治会館

山形県 小林 県土整備部長 他 10名

協 会 菅原支部長 他 24名

議 題／建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力による選定
- (3) 品質の確保・向上
- (4) DX推進の環境整備
- (5) 自由討議

10月20日(木)

宮城県との意見交換会

場 所／TKPガーデンシティ仙台勾当台

宮城県 狩野 土木部技監兼副部長 他 6名

協 会 菅原支部長 他 21名

議 題／建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力重視による選定と入札契約制度の改善
- (3) 品質の確保・向上
- (4) DX推進の環境整備

10月26日(水)

第4回情報部会(Web会議)

- 議 題／(1)GISに関する情報提供・意見交換
(2)各WGからの報告
(3)その他

10月26日(水)～27日(木)

ふくしま市町村支援機構「ひび割れ対策に配慮した
構造物の施工について」他へ講師派遣

講 師／鏡 幸二(大日本C株)

木下 正浩(株千代田C)

福島健一郎(三井共同建設C株)

山川 聡(いであ株)

10月28日(金)

宮城県建設センター「道路基礎研修1(LIVE)」

へ講師派遣

講 師／原田 慎也(株福山C)

岡田 篤(大日本C株)

10月28日(金)

若手の会定例会(集合およびWeb)

11月1日(火)

東北地方整備局との意見交換会

場 所／パレスへいあん

整備局 中平 企画部長 他 7名

協 会 菅原 支部長 他 19名

議 題／建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力による選定
- (3) 品質の確保・向上
- (4) DX推進の環境整備
- (5) その他

11月2日(水)

福島県との意見交換会

場 所／ホテル福島グリーンパレス

福島県 曳地 土木部長 他 11名

協 会 菅原支部長 他 23名

議 題／建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力による選定
- (3) 品質の確保・向上
- (4) DX推進の環境整備
- (5) その他

支部だより

11月8日(火)

青森県との意見交換会

場 所/ウエディングプラザアラスカ

青森県 宮本 県土整備部長 他 11名

協 会 菅原支部長 他 18名

議 題/建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力による選定
- (3) 品質の確保・向上
- (4) DX推進の環境整備
- (5) その他

11月8日(火)

福島県土木部技術講習会「BIM/CIMの基礎(仮)」

へ講師派遣(Web開催)

講 師/市川 健(株)復建技術C)

11月10日(木)

第2回技術部会

場 所/事務局会議室

議 題/(1) 令和5年度技術部会事業計画について

- (2) 災害支援対応状況報告
- (3) 各専門委員会活動報告他

11月11日(金)

BIM/CIM講習会

場 所/仙台第一生命タワービルディング会議室

主 催 技術部会ICT専門委員会

受講者 20名

11月15日(火)

第2回地域コンサルタント委員会(Web会議)

議 題/(1) 大規模災害時の災害査定簡素化の適用について

- (2) 本部地域コン委員会の報告
- (3) その他

11月15日(火)

仙台市との意見交換会

場 所/TKPガーデンシティ仙台勾当台

仙台市 反畑 都市整備局次長 他 8名

協 会 菅原 支部長 他 20名

議 題/建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力による選定
- (3) 品質の確保・向上
- (4) DX推進の環境整備
- (5) その他

11月17日(木)

岩手県との意見交換会

場 所/岩手教育会館

岩手県 田中 県土整備部長 他 9名

協 会 菅原支部長 他 20名

議 題/建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力による選定
- (3) 品質の確保・向上
- (4) DX耐地震の環境整備

11月17日(木)

令和4年度河川講習会

場 所/ハーネル仙台

主 催 技術部会河川専門委員会

共 催 東北地方整備局

受講者 66名(建コン会員57名)

11月21日(月)

建設コンサルタント企業年金基金説明会

(Web)

11月21日(月)~30日(水)

技術士模擬面接(Webおよび対面)

11月22日(火)

令和4年度講演会「震災復興が生み出すこれからの東北」
~復興道路・復興支援道路の果たす役割~

場 所/パレスへいあん

講 演/「気仙沼市の観光復興と復興事業の関連・

今後の展開」

一般社団法人 気仙沼地域戦略 玉川 千晴 氏
「復興のその先へ

~宮古市の持続可能なまちづくり~」

岩手県 宮古市長 山本 正徳 氏

「震災復興の現状と今後」

東北地方整備局 企画部長 中平 善伸 氏

主 催 (一社)建設コンサルタント協会東北支部広報委員会

後 援 国土交通省東北地方整備局、河北新報社、

日刊建設工業新聞社、日刊建設通信新聞社、

建設新聞社、日本建設新聞社

協 賛 公益社団法人土木学会東北支部、

公益社団法人日本技術士会東北支部

参加者 50名

11月28日(月)

東北地方整備局若手職員と建コン協若手の会 交流会

場 所/アエル 大会議室

主 催 若手の会

参加者 22名

11月28日(月)~29日(火)

青森県建設技術センター「一般構造物研修会」

へ講師派遣

講 師/北原 一彦(株)オリエンタルC)

11月30日(水)
全国事務局長会議 (Web会議)

12月1日(木)～9日(金)
技術士模擬面接 (Webおよび対面)

12月5日(月)
道路部会
場 所/支部会議室

12月6日(火)
宮城県令和4年度土木職員研修「軟弱地盤・斜面安定
対策研修(LIVE)」へ講師派遣
講 師/細谷 健介 (新和設計株)
橋本 直樹 (川崎地質株)
沖島 剛 (株復建技術C)

12月6日(火)
企画委員会
場 所/支部会議室
議 題/(1) 来年度の事業計画および予算(案)につ
いて
(2) そ の 他

12月7日(水)
本部・整備局意見交換会(東北ブロック)
場 所/パレスへいあん
東北地方整備局 安部副局長 他 13名
本 部 野崎副会長 他 11名
協 会 菅原 支部長 他 11名
議 題/建コンからの提案議題
(1) 担い手確保・育成のための環境整備
(2) 技術力による選定
(3) 品質の確保・向上
(4) DX推進の環境整備と「成長と好循環の
実現」

12月9日(金)
若手の会

12月13日(火)
第5回情報部会 (Web会議)
議 題/(1) BIM/CIMに関する情報提供(説明会)
(2) 各WGより活動報告
(3) そ の 他

12月15日(木)
役員会
場 所/パレスへいあん
議 題/(1) 令和5年度支部事業計画(案)について
(2) 令和5年度支部予算(案)について
(3) そ の 他

12月15日(木)
本部 多田顧問講演会
場 所/パレスへいあん
主 催 総務部会 参加者 約50名

12月15日(木)
宮城県土木部「橋梁設計研修」へ講師派遣
講 師/荒屋敷 克志 (いであ株)

12月20日(火)
宮城県建設センター「道路基礎研修2(集合・LIVE
複合)」へ講師派遣
講 師/岡田 篤 (大日本C株)

12月21日(水)～22日(木)
東北地方整備局河川部「河川構造物(河川・ダム)研修」
へ講師派遣
講 師/栗山 卓也 (日本工営株)
村上 幸治 (株エイト日本技術開発)
粟飯原 稔 (八千代E株)
細谷 健介 (新和設計株)

1月17日(火)
福島県農林水産部令和4年度農林土木技術研修(中堅
職員研修2)へ講師派遣
講 師/石井 一人 (パシフィックC株)

1月24日(火)
役員会
場 所/アエル 6F セミナールーム1
議 題/(1) 本部・支部意見交換会について
(2) 各部会・委員会からの報告
(3) そ の 他

2月2日(木)
「市町村からの災害時対応要請」に係る説明会(Web)
場 所/事務局会議室からWeb配信
主 催 対外活動委員会 受講者 120名

2月15日(水)
第21回 高校生「橋梁模型」作品発表会
主 催 高校生「橋梁模型」作品発表会実行委員会
(当支部他5団体共催)

2月16日(木)
役員会
場 所/パレスへいあん
議 題/(1) 本部・支部意見交換会について
(2) 各部会・委員会からの報告
(3) そ の 他

支部だより

2月16日(木)

経営者委員会(社長会)

場 所/パレスへいあん

議 題/(1) 本部地域コンサルタント委員会の報告
(2) その他

講 演/「社会資本整備に関する最近の動向」
東北地方整備局企画部 技術調整管理官
二瓶 昭弘 氏

2月16日(木)

第6回情報部会(メール確認)

議 題/(1) 令和5年度事業計画(案)について
(2) 各WGからの報告
(3) その他

2月20日(月)~21日(火)

宮城県建設センター「橋梁維持・補修研修〈LIVE〉」
へ講師派遣

講 師/石井 一人(パシフィックC株)

2月22日(水)

広報委員会

場 所/株復建技術C 会議室

議 題/(1) 令和5年度事業計画(案)について
(2) 各WGからの報告
(3) その他

3月6日(月)

建コン本部と支部との意見交換会

場 所/パレスへいあん

本 部 野崎会長 他 11名

支 部 菅原支部長 他 23名

議 題/(1) 令和5年度「要望と提案」概要の説明に
ついて
(2) 令和5年度「白書」の基本方針と骨子に
ついて
(3) 支部からの提案
(4) その他

3月8日(水)

第5回対外活動委員会(Web会議)

議 題/(1) 令和4年度の意見交換会総括について
(2) 令和5年度の「要望と提案」について
(3) その他

3月9日(木)

令和4年度環境専門委員会セミナー(Web講習会)

場 所/建コン事務局会議室より配信

主 催 技術部会環境専門委員会

受講者 86名(整備局4名、建コン82名)

3月23日(木)

企画委員会

場 所/支部会議室

議 題/(1) 令和5年度支部総会について
(2) その他

[会員の動向]

◆ 新入会員の紹介

令和5年2月入会 (株)テイコク 東北支店
 東北支店長 森 英樹
 〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-202
 TEL 022-343-0956 FAX 022-343-0996

◆ 会員の異動（次の方が就任されました）

令和4年 9月 1日 川崎地質(株)
 北日本支社長 菅野 孝美

令和4年 9月 1日 (株)東北構造社
 代表取締役 小出 誓哉

令和4年10月 1日 (株)アサノ大成基礎エンジニアリング東北支社
 支社長 根本 剛

令和4年10月 1日 三協コンサルタント(株)
 代表取締役 佐藤 裕之

令和4年10月 1日 パシフィックコンサルタンツ(株)東北支社
 支社長 大石 健二

令和4年10月26日 大和工営(株)
 代表取締役 大貫 久男

令和4年11月 1日 (株)コウキコンサルタント
 代表取締役 星 啓介

◆ 住所変更

令和4年10月24日 協和設計(株)東北支店
 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-6-1（東武仙台第一ビル3F）
 TEL 022-742-3711（変更）
 FAX 022-742-3712（変更）

令和5年 2月 1日 (株)日本インシーク東北支店
 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24
 TEL 022-724-7530（変更なし）
 FAX 022-724-7540（変更なし）

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部 会員名簿

会員 4月現在 107社

| 会社名 | 事業所名 | 郵便番号・住所 | 電話番号 |
|--------------------|-------|------------------------------------|---------------|
| (株)アーバン設計 | 本社 | 〒963-0201 福島県郡山市大槻町字御前東46-26 | 024-961-7500 |
| (株)アサノ大成基礎エンジニアリング | 東北支社 | 〒981-3133 仙台市泉区泉中央2-25-6 | 022-343-8166 |
| 朝日航洋(株) | 東北営業部 | 〒981-3131 仙台市泉区七北田字古内1-1 | 022-771-2382 |
| アジア航測(株) | 仙台支店 | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-4-28 | 022-216-3553 |
| (株)東コンサルタンツ | 本社 | 〒970-8026 福島県いわき市平字正内町101 | 0246-23-8424 |
| (株)アルファ水工コンサルタンツ | 仙台事務所 | 〒985-0874 多賀城市八幡3-10-27 | 022-207-5300 |
| いであ(株) | 東北支店 | 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-1-11 | 022-263-6744 |
| (株)ウエスコ | 東北事務所 | 〒981-1106 仙台市太白区柳生1-11-8 | 022-797-5271 |
| (株)ウヌマ地域総研 | 本社 | 〒010-0965 秋田県秋田市八橋新川向13-19 | 018-863-5809 |
| エイト技術(株) | 本社 | 〒031-0072 青森県八戸市城下2-9-10 | 0178-47-2121 |
| (株)エイト日本技術開発 | 東北支社 | 〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161 | 022-712-3555 |
| (株)エーエス | 仙台営業所 | 〒980-0003 仙台市青葉区小田原5-1-53-208 | 022-797-9718 |
| 応用地質(株) | 東北事務所 | 〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町3-21-2 | 022-237-0471 |
| (株)オオバ | 東北支店 | 〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-4 | 022-261-8861 |
| (株)オリエンタルコンサルタンツ | 東北支社 | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1 | 022-215-5522 |
| 開発虎ノ門コンサルタンツ(株) | 東北支店 | 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24 | 022-292-5220 |
| (株)片平新日本技研 | 東北支店 | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17 | 022-722-3130 |
| 川崎地質(株) | 北日本支社 | 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-4-16 | 022-792-6330 |
| (株)菊池技研コンサルタンツ | 本社 | 〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字石橋前6-8 | 0192-27-0835 |
| 基礎地盤コンサルタンツ(株) | 東北支社 | 〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2-9-23 | 022-291-4191 |
| キタイ設計(株) | 東北支社 | 〒980-0801 仙台市青葉区木町通2-6-53 | 022-343-5416 |
| (株)キタコン | 本社 | 〒036-8051 青森県弘前市大字宮川1-1-1 | 0172-34-1758 |
| (株)キタツク | 仙台事務所 | 〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-1-37 | 022-265-1051 |
| (株)橋梁コンサルタンツ | 東北事務所 | 〒963-8024 福島県郡山市朝日1-28-14 | 024-953-3667 |
| (株)協和コンサルタンツ | 東北支社 | 〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-14 | 022-266-6073 |
| 協和設計(株) | 東北支店 | 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-6-1 | 022-742-3711 |
| (株)近代設計 | 東北支社 | 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-12-12 | 022-207-2480 |
| (株)ケー・シー・エス | 東北支社 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2 | 022-224-1591 |
| (株)建設環境研究所 | 東北支社 | 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10 | 022-292-6012 |
| (株)建設技術研究所 | 東北支社 | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25 | 022-261-6861 |
| (株)コウキコンサルタンツ | 本社 | 〒966-0902 福島県喜多方市松山町村松字小荒井道西405-10 | 0241-24-2701 |
| (株)構研エンジニアリング | 東北営業所 | 〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-203 | 022-344-6231 |
| (株)郡山測量設計社 | 本社 | 〒963-8041 福島県郡山市富田町字十文字54-3 | 024-952-5200 |
| (株)国際開発コンサルタンツ | 仙台支店 | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-5-25 | 022-225-6201 |
| 国際航業(株) | 東北支社 | 〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-45 | 022-299-2801 |
| 国土防災技術(株) | 東北支社 | 〒984-0075 仙台市若林区清水小路6-1 | 022-216-2586 |
| (株)コサカ技研 | 本社 | 〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字上碓田56-2 | 0178-27-3444 |
| (株)コンテック東日本 | 本社 | 〒030-0122 青森県青森市大字野尻字今田91-3 | 017-738-9346 |
| (株)寒河江測量設計事務所 | 本社 | 〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153-1 | 0237-86-5520 |
| (株)サト一技建 | 本社 | 〒984-0816 仙台市若林区河原町1-6-1 | 022-262-3535 |
| (株)三協技研 | 本社 | 〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-8-14 | 022-224-5503 |
| 三協コンサルタンツ(株) | 本社 | 〒994-0062 山形県天童市長岡北1-2-1 | 023-655-5000 |
| サンコーコンサルタンツ(株) | 東北支店 | 〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2 | 022-273-4448 |
| (株)三和技術コンサルタンツ | 本社 | 〒995-0015 山形県村山市楯岡二日町7-21 | 0237-55-3535 |
| 柴田工事調査(株) | 本社 | 〒012-0801 秋田県湯沢市岩崎字南五条61-1 | 0183-73-7171 |
| (株)庄内測量設計舎 | 本社 | 〒999-7781 山形県東田川郡庄内町余目字三人谷地69-9 | 0234-43-2459 |
| 昭和(株) | 東北支社 | 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-6-1 | 022-742-5301 |
| (株)昭和土木設計 | 本社 | 〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南4-1-23 | 019-638-6834 |
| (株)新星コンサルタンツ | 東北支社 | 〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-11 | 050-5814-4959 |
| 新和設計(株) | 本社 | 〒992-0021 山形県米沢市大字花沢880 | 0238-22-1170 |
| (株)新和調査設計 | 本社 | 〒963-8016 福島県郡山市豊田町4-12 | 024-934-5311 |
| JR東日本コンサルタンツ(株) | 東北支店 | 〒983-0853 仙台市宮城野区東六番丁31-2 | 022-211-0872 |
| セントラルコンサルタンツ(株) | 東北支社 | 〒980-0822 仙台市青葉区立町27-21 | 022-264-1923 |
| (株)創研コンサルタンツ | 本社 | 〒010-0951 秋田県秋田市山王1-9-22 | 018-863-7121 |

| 会社名 | 事業所名 | 郵便番号・住所 | 電話番号 |
|-------------------|-------|--------------------------------|--------------|
| (株)総合技術コンサルタント | 東北支店 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-6-15 | 022-268-4191 |
| 創和技術(株) | 本社 | 〒010-0951 秋田県秋田市山王6-20-7 | 018-863-4545 |
| 玉野総合コンサルタント(株) | 仙台支店 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-13-22 | 022-716-6646 |
| (株)田村測量設計事務所 | 本社 | 〒990-0023 山形県山形市松波4-12-3 | 023-642-6644 |
| 第一復建(株) | 仙台事務所 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20 | 022-722-3701 |
| (株)ダイエツ | 本社 | 〒965-0831 福島県会津若松市表町2-53 | 0242-26-1253 |
| 大日コンサルタント(株) | 仙台事務所 | 〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30 | 022-225-5626 |
| 大日本コンサルタント(株) | 東北支社 | 〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35 | 022-261-0404 |
| (株)ダイヤコンサルタント | 東北支社 | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-4-1 | 022-263-5121 |
| 大和工営(株) | 本社 | 〒996-0053 山形県新庄市大字福田字福田山711-43 | 0233-22-2422 |
| (株)地圏総合コンサルタント | 仙台支店 | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25 | 022-261-6466 |
| 中央開発(株) | 東北支店 | 〒984-0016 仙台市若林区蒲町東20-6 | 022-766-9121 |
| (株)中央技術コンサルタント | 東北支店 | 〒981-3133 仙台市泉区泉中央1-13-4 | 022-375-6787 |
| 中央コンサルタント(株) | 仙台支店 | 〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-27 | 022-722-2541 |
| 中央復建コンサルタント(株) | 東北支社 | 〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-7 | 022-267-1459 |
| 中電技術コンサルタント(株) | 東北事務所 | 〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-15 | 022-397-8173 |
| (株)長大 | 仙台支社 | 〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26 | 022-781-8628 |
| (株)千代田コンサルタント | 東北支店 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2 | 022-214-6261 |
| (株)テイコク | 東北支店 | 〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-202 | 022-343-0956 |
| (株)東京建設コンサルタント | 東北支社 | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17 | 022-222-8887 |
| 東京コンサルタント(株) | 東北支店 | 〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-20 | 022-265-3891 |
| (株)東建工営 | 本社 | 〒981-1227 名取市杜せきのした1-2-7 | 022-383-9811 |
| (株)東光コンサルタント | 仙台支店 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-9-8 | 022-264-1578 |
| (株)トーチコンサルタント | 東北事務所 | 〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30 | 022-262-0243 |
| (株)ドーコン | 東北支店 | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25 | 022-225-2860 |
| 東邦技術(株) | 本社 | 〒014-0041 秋田県大仙市大曲丸子町2-13 | 0187-62-3511 |
| (株)東北開発コンサルタント | 本社 | 〒980-0804 仙台市青葉区大町2-15-33 | 022-225-5661 |
| (株)東北構造社 | 本社 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3 | 022-227-1877 |
| (株)土木技研 | 本社 | 〒020-0839 岩手県盛岡市津志田南2-16-20 | 019-638-8131 |
| 日栄地質測量設計(株) | 本社 | 〒970-8026 福島県いわき市平字作町1-3-2 | 0246-21-3111 |
| (株)日水コン | 東北支所 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3 | 022-222-1101 |
| (株)日本インシーク | 東北支店 | 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24 | 022-724-7530 |
| 日本工営(株) | 仙台支店 | 〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-1-11 | 022-227-3525 |
| (株)日本構造橋梁研究所 | 東北支社 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-1 | 022-713-6657 |
| (株)日本港湾コンサルタント | 東北事務所 | 〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-5 | 022-215-9051 |
| 日本振興(株) | 東北支店 | 〒980-8485 仙台市青葉区中央1-2-3 | 022-797-0391 |
| (株)ニュージェック | 東北支店 | 〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2 | 022-301-7611 |
| パシフィックコンサルタント(株) | 東北支社 | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1 | 022-302-3940 |
| (株)パスコ | 東北事業部 | 〒983-0864 仙台市宮城野区名掛丁205-1 | 022-299-9511 |
| (株)東日本建設コンサルタント | 本社 | 〒974-8261 福島県いわき市植田町林内26-5 | 0246-63-6063 |
| (株)福田水文センター | 東北支店 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町3-6-18 | 022-281-8525 |
| (株)福山コンサルタント | 東北支社 | 〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-17 | 022-262-0118 |
| 富士コンサルタント(株) | 仙台支店 | 〒982-0013 仙台市太白区太子堂10-20 | 022-395-6216 |
| (株)ふたば | 本社 | 〒979-1113 福島県双葉郡富岡町曲田55 | 0240-22-0261 |
| (株)双葉建設コンサルタント | 本社 | 〒996-0002 山形県新庄市金沢字谷地田1399-11 | 0233-22-0891 |
| (株)復建エンジニアリング | 東北支社 | 〒980-0802 仙台市青葉区二日町11-11 | 022-267-2765 |
| (株)復建技術コンサルタント | 本社 | 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-7-25 | 022-262-1234 |
| 復建調査設計(株) | 東北支店 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-1 | 022-723-5830 |
| 三井共同建設コンサルタント(株) | 東北支社 | 〒980-0021 仙台市青葉区中央4-10-3 | 022-225-0489 |
| 陸奥テックコンサルタント(株) | 本社 | 〒963-8011 福島県郡山市若葉町17-18 | 024-922-2229 |
| 八千代エンジニアリング(株) | 北日本支店 | 〒980-0802 仙台市青葉区二日町1-23 | 022-261-8344 |
| (株)横浜コンサルティングセンター | 仙台支店 | 〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-7 | 022-262-1493 |
| (株)吉田測量設計 | 本社 | 〒020-0861 岩手県盛岡市仙北1-3-13 | 019-635-1740 |



編集後記

今号は「東北地方の世界遺産」を特集しました。先人たちの歴史や努力をご紹介しましたが、如何だったでしょうか？

私は宮城県の大崎地方出身ですが、実はここにも世界遺産があります。

世界遺産といっても歴史的建造物などを対象にしたものではなく、伝統的な農業や文化・景観などの「システム」を認定する「世界農業遺産」というものですが、東北地方では『大崎耕土』の巧みな水管理による水田システムが現在唯一の認定だそうです。

普通に見てきた裏の田んぼが実は「世界農業遺産」だったというのも不思議な感じですが、初夏の田んぼには蛍がいて、稲刈りの後は皆でイナゴとりをして煮て食べる（家中が臭くなる）という小さいころの記憶は、たしかに先人たちが遺した豊かな農村のものだったと思います。

先日のトルコ・シリア大地震では信じられない規模の被害が発生し、トルコにある世界遺産にも被害が及んだそうです。

テレビを通して瓦礫となった街並みの光景をみると、改めて昨日まであった普通の生活の大切さと、我々建設コンサルタントが担う良質の社会インフラを遺すことの重要性を感じました。被災された方々の一刻も早い復旧・復興をお祈り致します。

さて、次号の特集は東北地方の世界遺産（後編）を予定しております。

先人達が遺した東北地方の偉業を引き続きご紹介したいと思いますので、ご期待ください。

改めて年末から年度末のご多忙の折に本号のために記事を執筆頂いた皆様、本当にありがとうございました。

（令和5年3月 相澤 達也 記）

JCCA TOHOKU Vol.66

| | | | | |
|-----|----------------------------|------|------|------|
| 発行 | 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会東北支部 | | | |
| | 〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-6-11 | | | |
| | アーク仙台ビル | | | |
| | TEL 022-263-6820 | | | |
| 編集 | 広報委員長 | 菊池透 | 副委員長 | 菊田博己 |
| | 副委員長 | 上野圭祐 | 広報委員 | 相澤達也 |
| | 〃 | 大友正樹 | 〃 | 樋口章大 |
| | 〃 | 大場秀行 | 〃 | 遠藤敦 |
| | 〃 | 長谷川悟 | 〃 | 海藤剛 |
| | 〃 | 真田広之 | 〃 | 遠藤康郎 |
| | 〃 | 高橋伸彰 | 〃 | |
| | 〃 | 池田崇 | 〃 | |
| 事務局 | 淀川政晴・小川みゆき | | | |
| 印刷 | ハリウコミュニケーションズ株式会社 | | | |
| | 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 | | | |
| | TEL 022-288-5011 | | | |



.....明日への風、東北から.....

ロゴのデザインについて

三本の流れは、東北から発進する新しい風と〔文化〕を象徴したものであり、その中の白い三角は東北独自の〔風土〕と〔歴史〕をイメージしたものである。